A scenic waterfall in a lush green forest. The water is cascading down a rocky ledge into a pool. The surrounding area is filled with dense green foliage. In the foreground, there are several large, vibrant red flowers. The overall atmosphere is serene and natural.

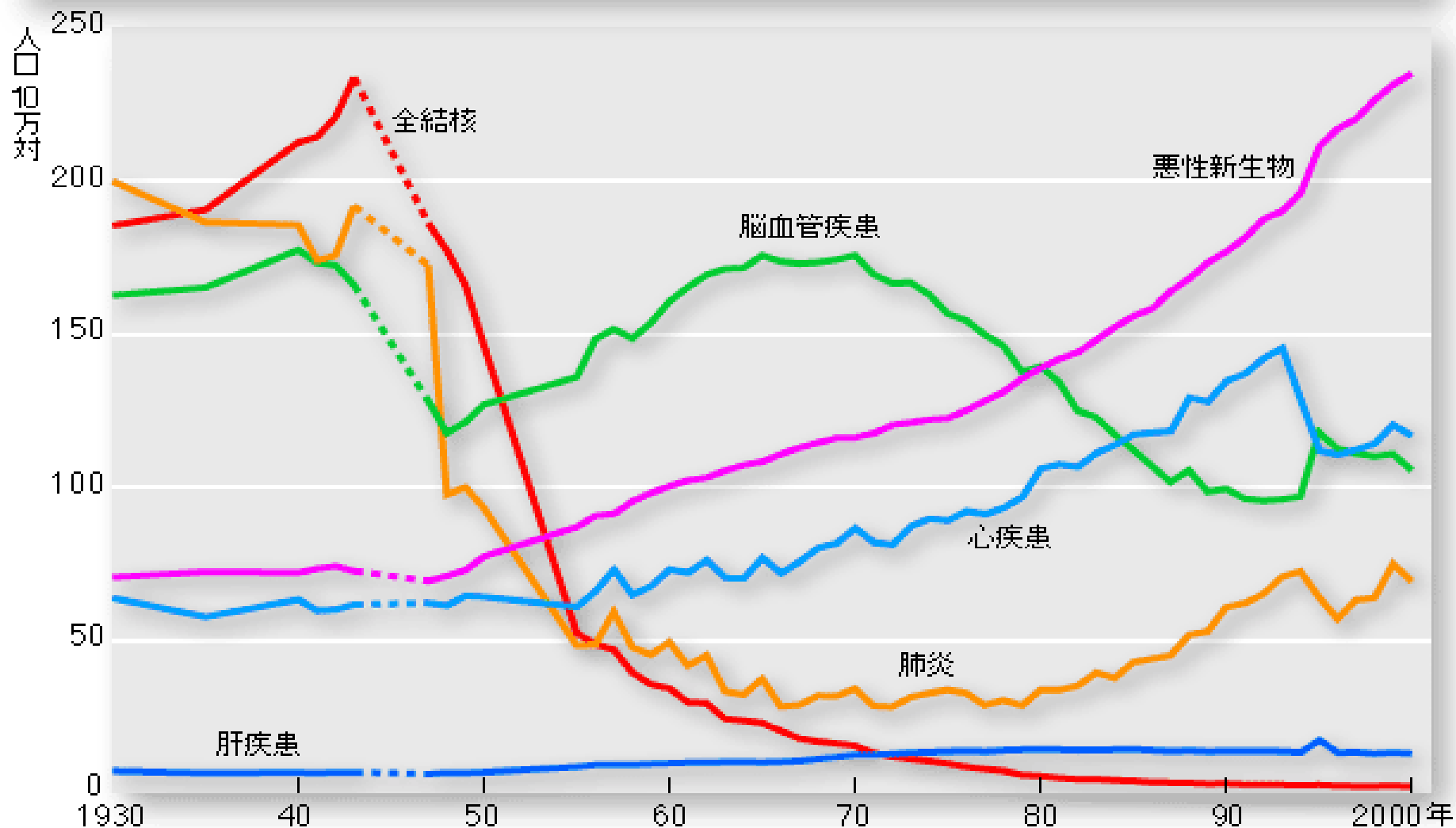
熊本産鹿角靈芝のパワー 「癌の免疫療法」

ハルピン医科大学名誉教授
趙基恩

「癌の免疫治療と 鹿角靈芝・宝寿仙」



死亡率の推移（昭和5年～平成12年）



がんは昭和56年から死因の第1位を占め、平成12年には死亡数295,399人、人口10万対死亡率235.2、総死亡の30.7%となっている。

癌（がん）の発生

一、外因（外部原因）

- (1) 放射線・原子能射線（白血病など）
- (2) 紫外線（皮膚がん）
- (3) 慢性刺激・外傷（舌癌・胃癌など）
- (4) 線維と体内異物（肺癌など）
- (5) 化学物質・空気汚染
- (6) ウイルス感染（肝臓癌など）
- (7) 慢性炎症・潰瘍・火傷など

癌（がん）の発生

二、内因（内部原因）

- (1) 遺伝素因（結腸癌・腎臓ガン・乳癌・胃癌など）
- (2) 精神的素因（ストレス）
- (3) 免疫機能の低下
- (4) 内分泌失調（卵巣癌・睾丸ガン・子宮癌など）
- (5) 年齢（20-40才：20%、45才以上：80%）
- (6) 性別（男性：女性=1.48：1）

癌（がん）の発生

三、飲食と生活習慣

- (1) 塩からい物
- (2) 添加物質
- (3) 焼け焦げた物
- (4) 変質した物
- (5) 運動不足
- (6) 睡眠不足

癌（がん）の発生

四、地域の関係

- (1) 食道がん（アフリカ、中国河南省）
- (2) 胃癌（日本・各国の沿海地域）
- (3) 大腸癌（アメリカ）
- (4) 肺がん（イギリス・化学工場の多い都市）
- (5) 鼻咽ガン（沿海地域・中国広東省）

腫瘍・癌の治療法

手術療法

化学療法

放射線療法

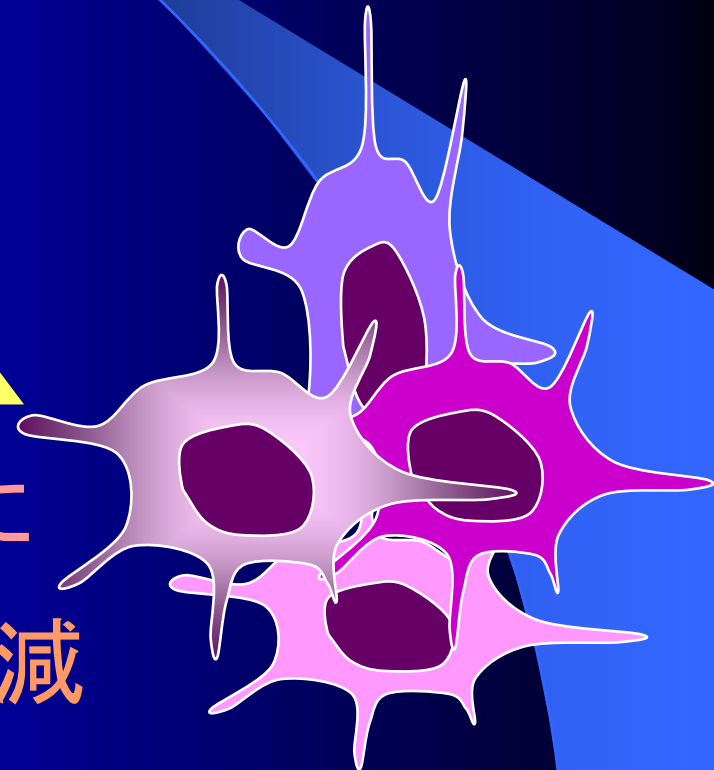
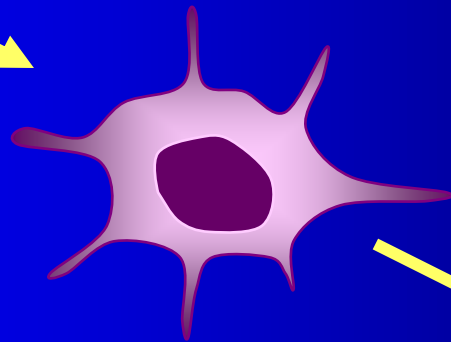
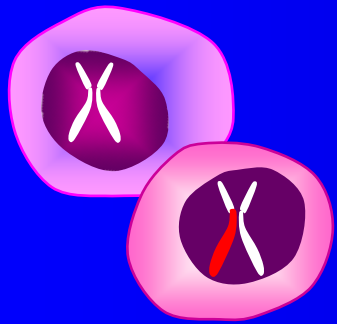
免疫療法

漢方療法

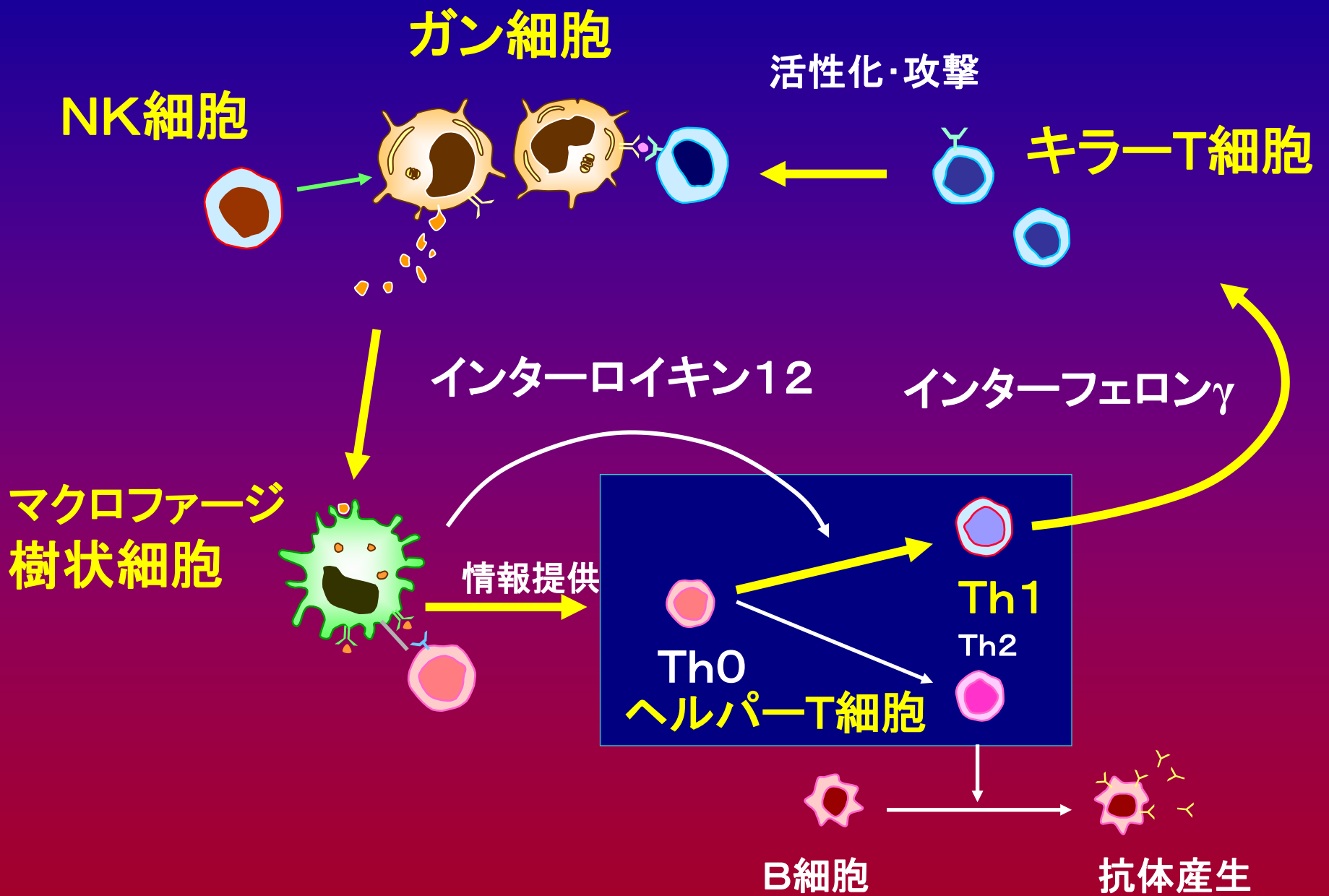
遺伝子療法

癌の発生病態に着目

きっかけは遺伝子障害



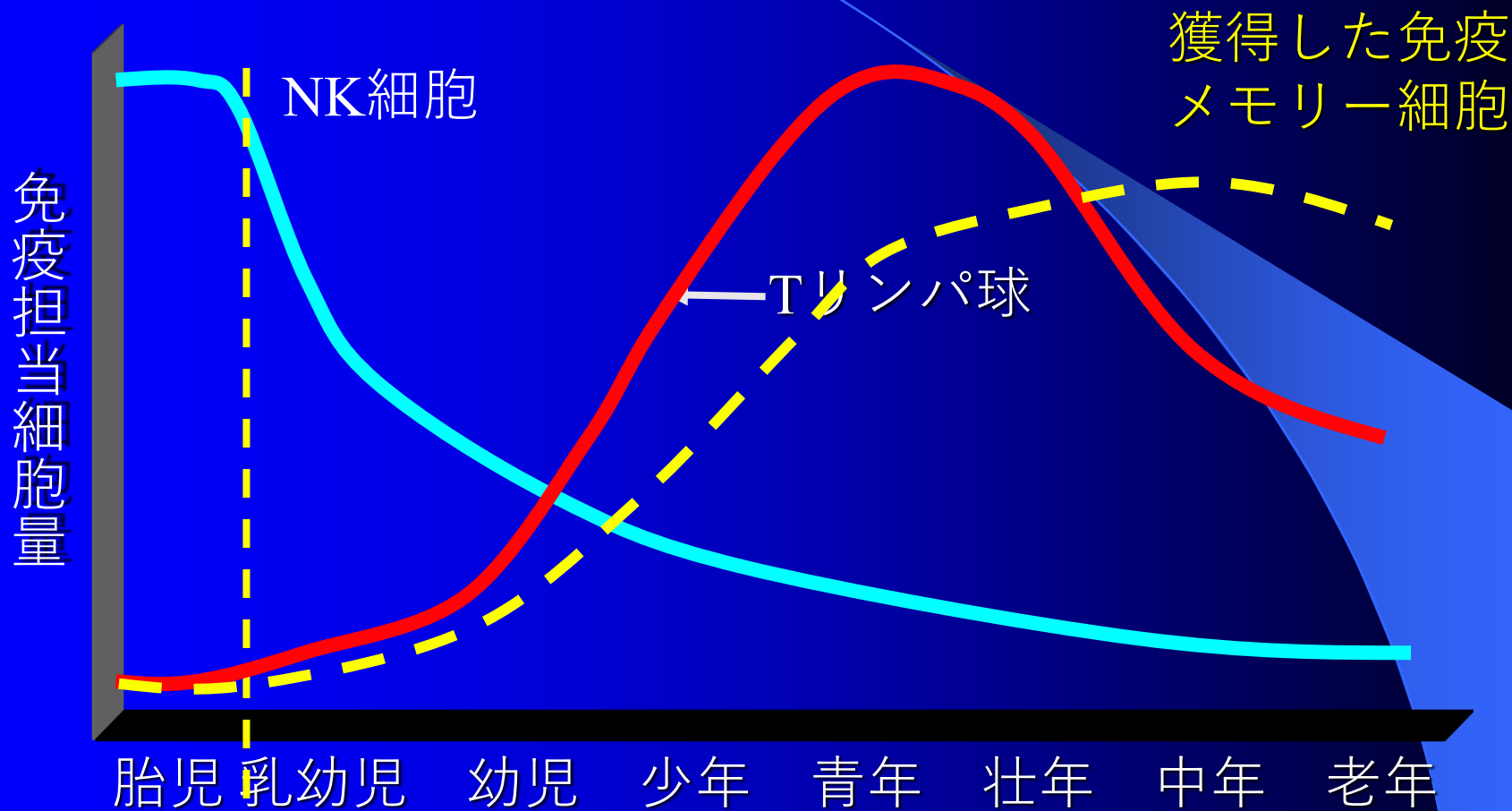
免疫力低下が、癌の発病に
癌の成長とともに免疫力激減



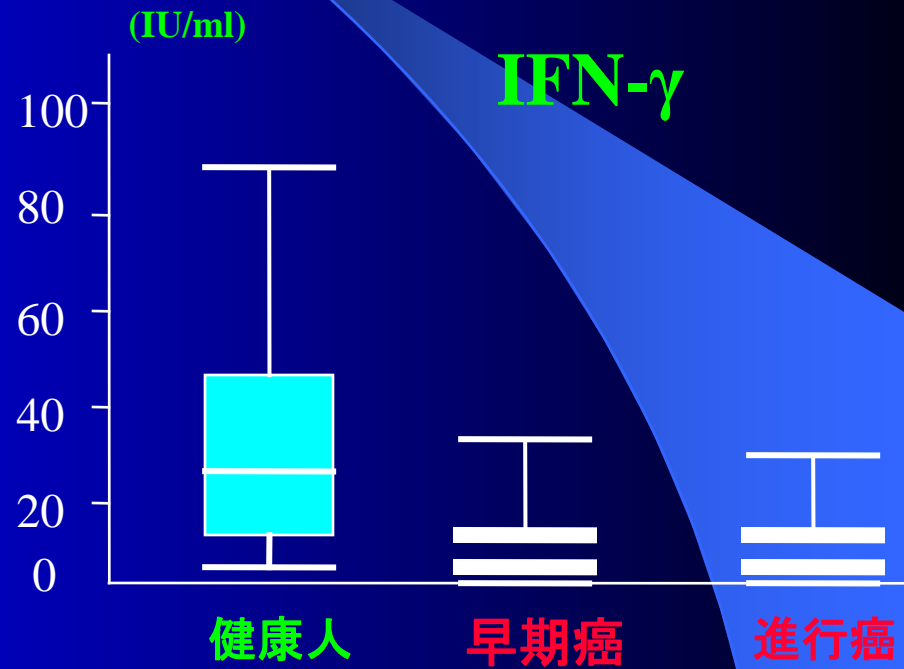
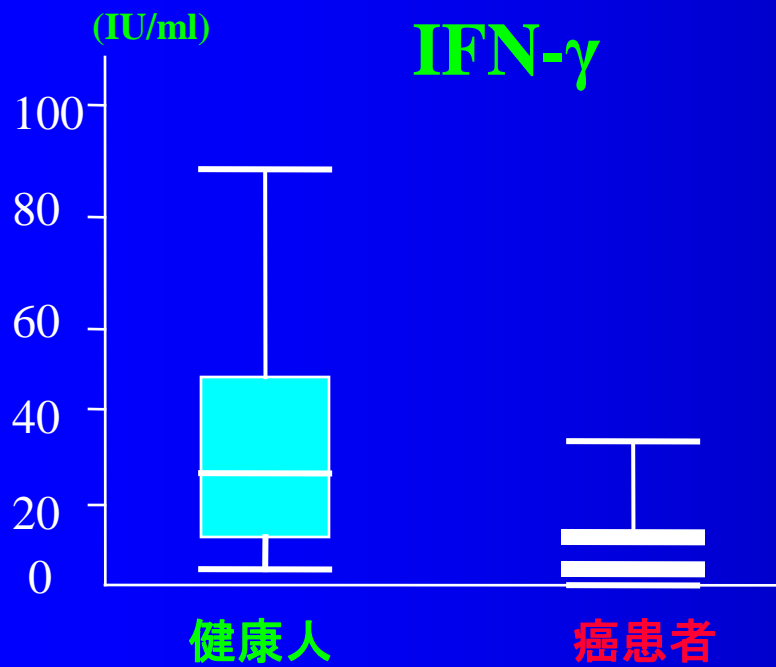
キラーT細胞が、ガン細胞(真ん中の大きな部分)を攻撃している図



年齢と免疫機能の関係

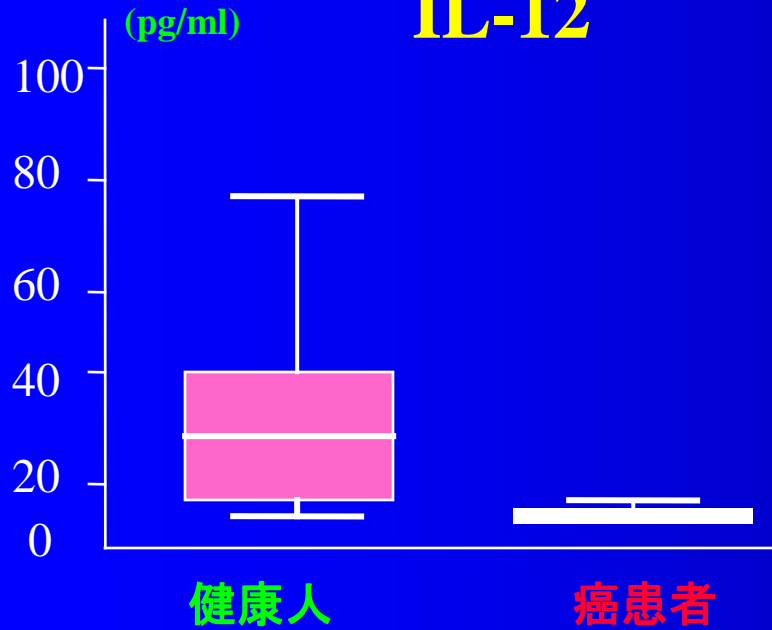


Interferon - γ の産生能

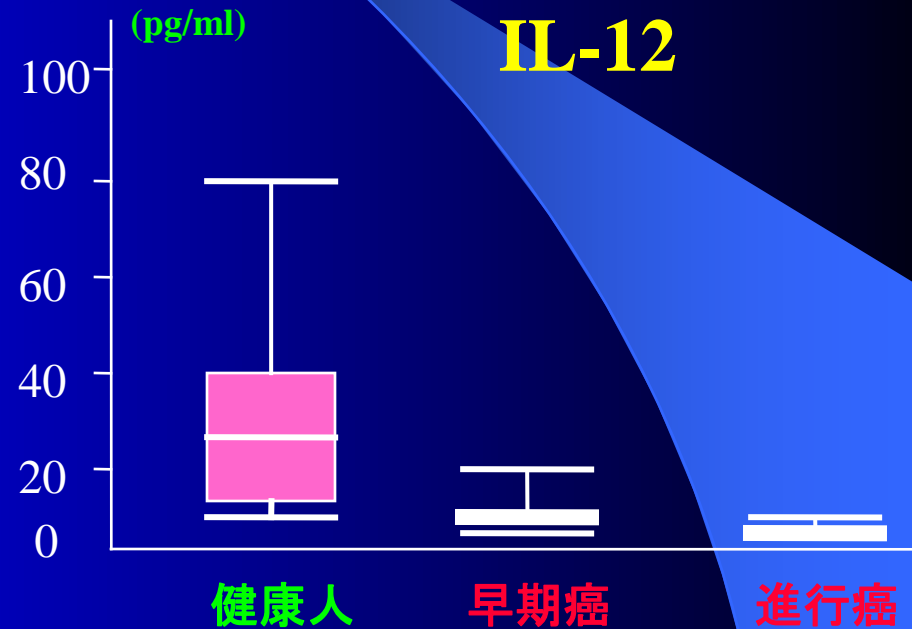


Interleukin-12の産生能

IL-12



IL-12



「がん免疫ドック」 細胞性免疫検査



「がん免疫ドック」・・・細胞性免疫検査

細胞性免疫検査(がん関連免疫検査)

サイトカイン (免疫生理活性物質)						
項目名	検査結果	単位	参考基準値	減少←	良好域	→増加
インターロイキン12	* 7.8	pg/ml	15.0-60.0	****	15	60
インターフェロンγ	* 0.7	IU/ml	16.0-50.0	**	16	50
腫瘍壊死因子	* 1550	pg/ml	1600-4000	*****	1600	4000

細胞障害活性						
項目名	検査結果	単位	参考基準値	減少←	良好域	→増加
NK細胞活性	46	%	18.0-50.0	*****	18	50

ヘルパーT細胞分類						
項目名	検査結果	単位	参考基準値	減少←	良好域	→増加
Th1	* 16.6	%	21.0-35.0	*****	21	35
Th2	* 4.7	%	1.0-3.2	*****	1.0	3.2
Th1/Th2	* 3.5	-	6.5-35.0	*****	6.5	35

参考基準値とは事前検討によって得られた健常域です。

「がん免疫ドック」・・・全身腫瘍マーカー

がん関連抗原等検査(腫瘍マーカー・その他)

がん関連抗原		検査結果	単位	参考正常値	健常域	注意域	警告域
項目	名						
CEA	*	5.7	ng/ml	2.5 以下	2.5	3	
αFP	*	7	ng/ml	20 以下	5	15	
CA19-9		15	U/ml	37 以下	20	37	
DUPAN-2		25	U/ml	150 以下	30	100	
SPan-1		4.7	U/ml	30 以下	18	30	
PIVKA-2		13	μU/ml	40 未満	30	40	
エラスターゼ1		250	ng/dl	100-400	350	400	
CA72-4		3	U/ml	4.0 以下	3.1	4.1	
シアリルLExI抗原	*	25	U/ml	38 以下	25	50	
TPA		16	U/l	70 以下	65	70	
SCC		1	ng/ml	1.5 以下	1.5	2	
CYFRA		1	ng/ml	3.5 以下	2.5	3.5	
PROGRP		20.4	pg/ml	46.0 未満	30	45	
					7.5	10	

健常者のパターン

細胞性免疫検査(がん関連免疫検査)

サイトカイン (免疫生理活性物質)						
項目名	検査結果	単位	参考基準値	減少←	良好域	→増加
インターロイキン12	25.6	pg/ml	15.0-60.0	*****	15 ~ 60	*****
インターフェロンγ	41.7	IU/ml	16.0-50.0	*****	16 ~ 50	*****
腫瘍壊死因子	1650	pg/ml	1600-4000	*****	1600 ~ 4000	*****

細胞障害活性						
項目名	検査結果	単位	参考基準値	減少←	良好域	→増加
NK細胞活性	29	%	18.0-50.0	*****	18 ~ 50	*****

がん患者さんのパターン

細胞性免疫検査(がん関連免疫検査)

サイトカイン (免疫生理活性物質)							
項目名	検査結果	単位	参考基準値	減少←	良好域	→増加	
インターロイキン12	* 7.8 以下	pg/ml	15.0-60.0	*****	15	60	
インターフェロンγ	* 5.1	IU/ml	16.0-50.0	*****	16	50	
腫瘍壊死因子	* 410	pg/ml	1600-4000	***	1600	4000	

細胞障害活性							
項目名	検査結果	単位	参考基準値	減少←	良好域	→増加	
NK細胞活性	* 57	%	18.0-50.0	*****	18	50	

大腸癌および肺転移

男性、55才、2000年3月、下血の原因で自宅近くの病院で検査を受け、上行結腸がん、ならびに肺転移と診断されました。そして肺転移は手つかずのまま、結腸がんの部分のみ切除する手術を受け、余命6ヵ月と告知されました。

自宅に帰ってからは自分で海洋深層水や玄米食といった食品類をとりながら療養生活を続けました。その後も、転移病巣はまったく縮小せず、むしろ増大傾向にあったとうかがわれます。

2000年12月、初診時に胸部CTと癌免疫ドックを受けました。胸部CTでは両肺に広がる多数の転移腫瘍が認められます。癌免疫ドックではインターロイキン12および腫瘍壊死因子の数値がとくに低く、NK細胞活性が高いことから癌に対する免疫力が低下しているのが明らかです。免疫治療開始。

(宇野先生のデータより)

写真A:治療前



写真B:治療5ヶ月後



細胞性免疫検査(癌関連免疫検査)

サイトカイン(免疫生理活性物質)	参考基準値	検査結果 (治療前)	検査結果 (治療5ヶ月後)
Interleukin 12	15.0~60.0 pg/ml	7.8以下	9.7 ↑
Interferon γ	16.0~50.0 IU/ml	17.6	24.1 ↑
腫瘍壊死因子(TNF- α)	1600~4000 pg/ml	380	1730 ↑
細胞障害活性			
Natural Killer Cell(NK)活性	18.0~50.0 %	55	48

癌関連抗原等検査(腫瘍マーカー)

癌関連抗原	参考基準値	検査結果 (治療前)	検査結果 (治療5ヶ月後)
CEA	5.0以下	0.7	2.5
α FP	10以下	3.8	2.2
CA19-9	37以下	2200	54 ↓
DUPAN-2	100以下	570	25 ↓
Span-1	30以下	420	27 ↓
PIVKA-2	40未満	47	20 ↓

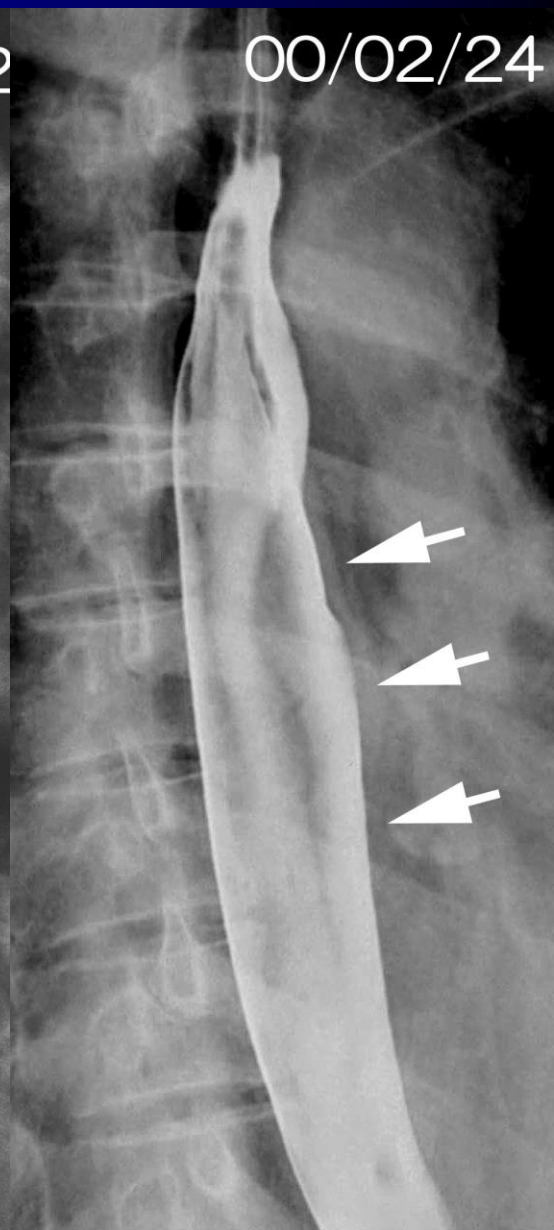
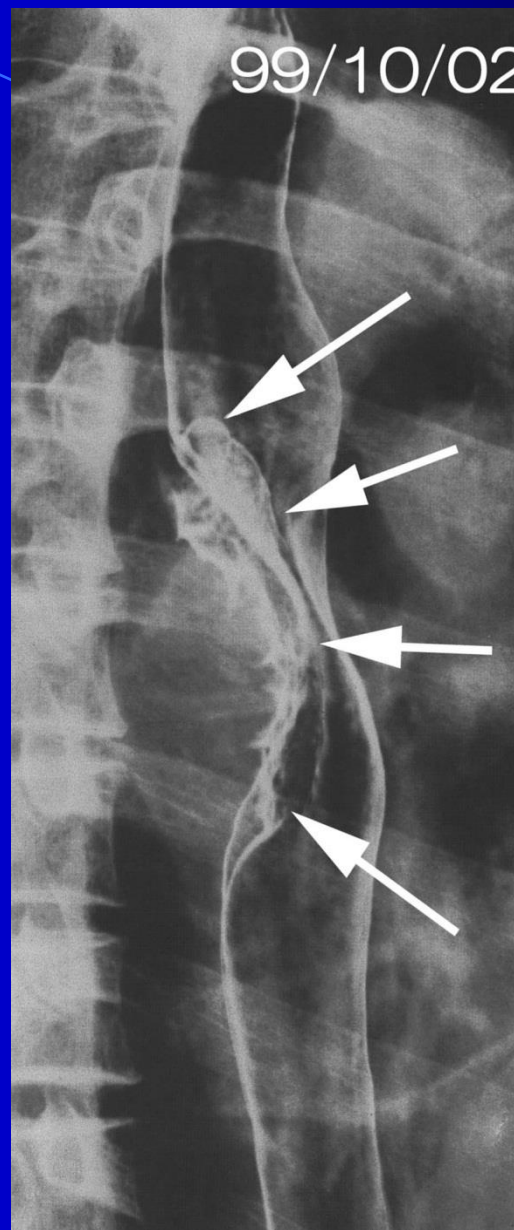
食道がん

男性、55才、1999年8月、健康診断で食道がんを指摘され、手術をすすめられた。

しかし、その5年前に実兄が同じ食道がんて手術を受けた後に亡くなっているため、手術を拒否した。1999年10月に来院し、ガンの細胞性免疫検査を受診するとともに、免疫治療を開始した。

1999年12月、あらゆる検査データに顕著な改善が認められた。2000年2月、食道の腫瘍がほぼ消失した。

宇野先生のデータより

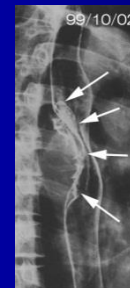


細胞性免疫検査(癌関連免疫検査)

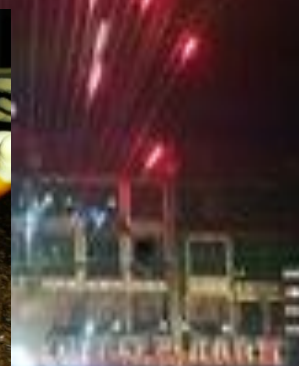
サイトカイン(免疫生理活性物質)	参考基準値	1999/10/1	1999/12/16	2000/2/24
Interleukin 12	15.0~60.0 pg/ml	7.8	36.2 ↑	46.8 ↑
Interferon γ	16.0~50.0 IU/ml	3.7	27.6 ↑	35.6 ↑
腫瘍壊死因子(TNF- α)	1600~4000 pg/ml	260	2640 ↑	1870
Natural Killer Cell(NK)活性	18.0~50.0 %	55	-	-
Th1	21.0~35.0 %	14.5	20.1 ↑	19.8
Th2	1.0~3.2 %	3.5	3.5	3 ↓

癌関連抗原等検査(腫瘍マーカー)

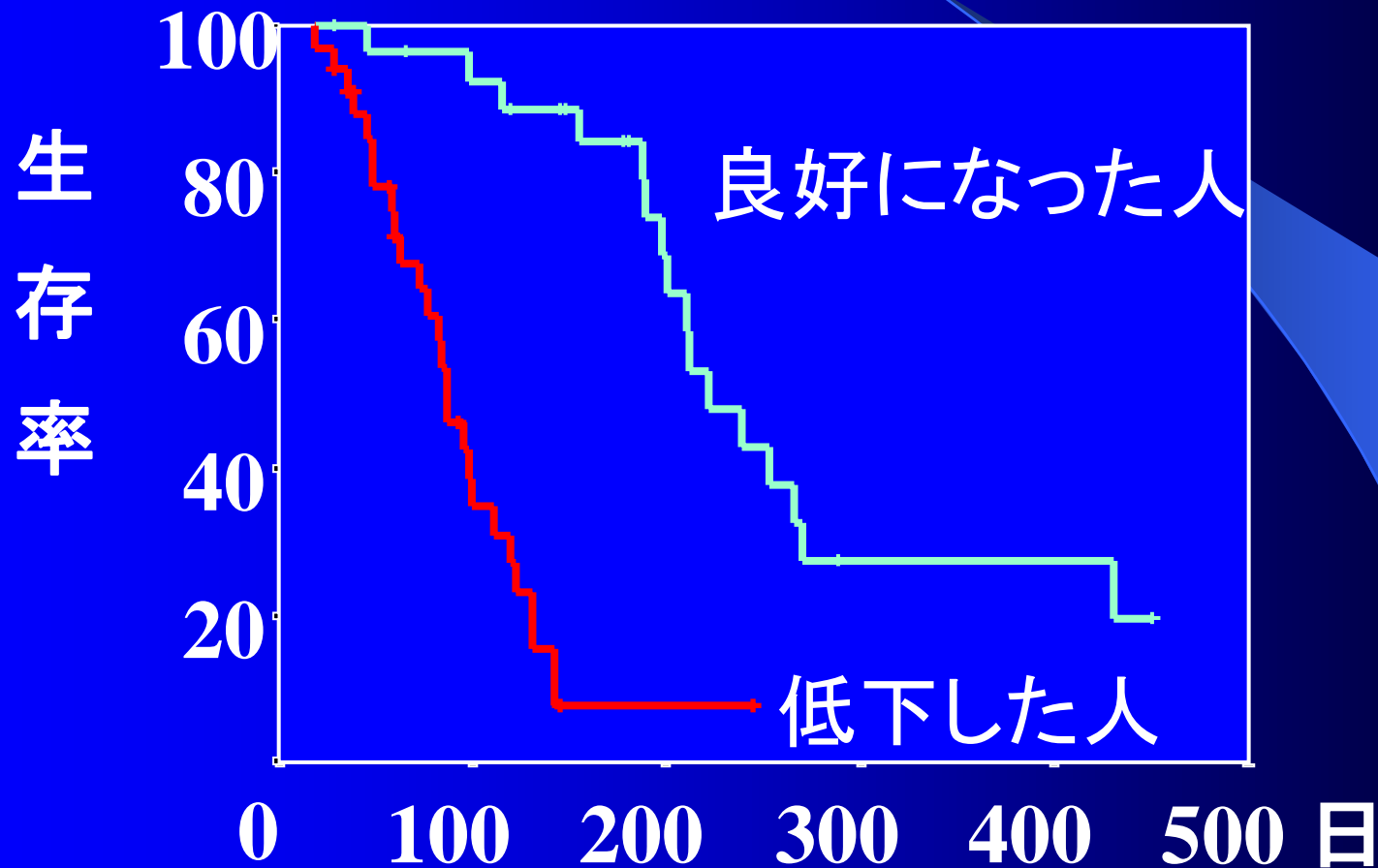
癌関連抗原	参考基準値	1999/9/1	1999/12/16	2000/2/24
CEA	2.5以下	76	14 ↓	3 ↓
IAP	500以下	981	624 ↓	477 ↓



β -グルカンの治療効果



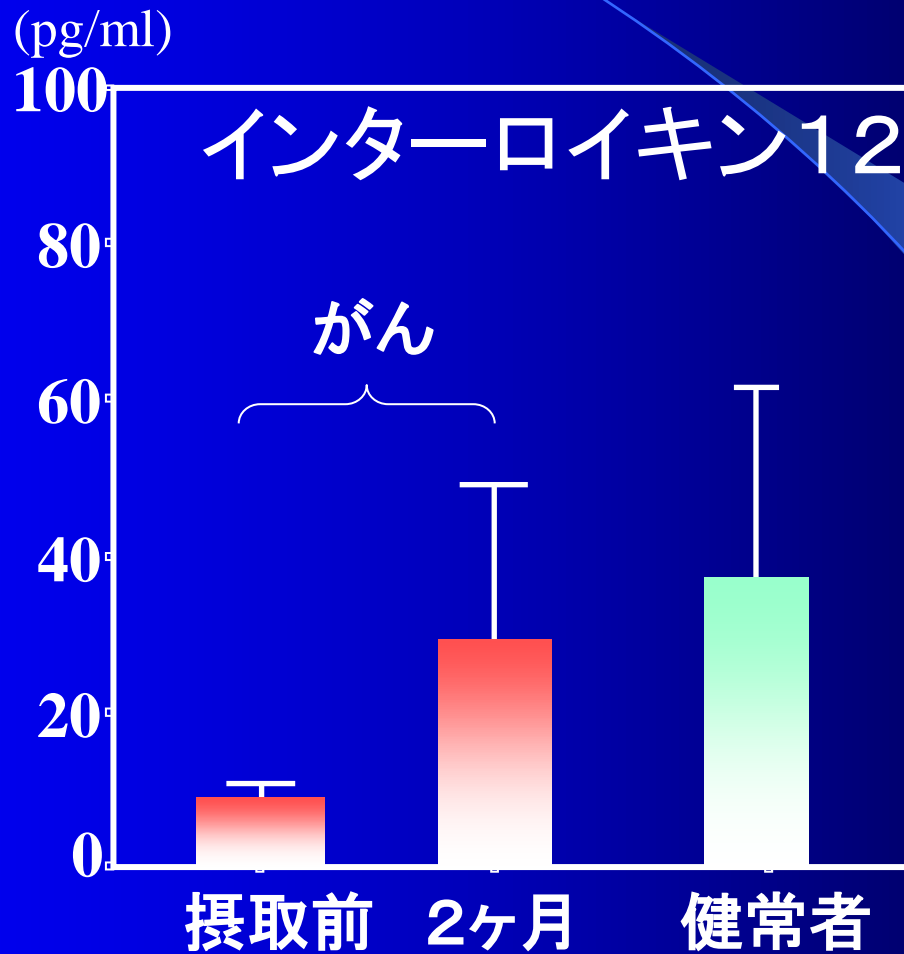
サイトカインが鍵を握る 延命・治癒



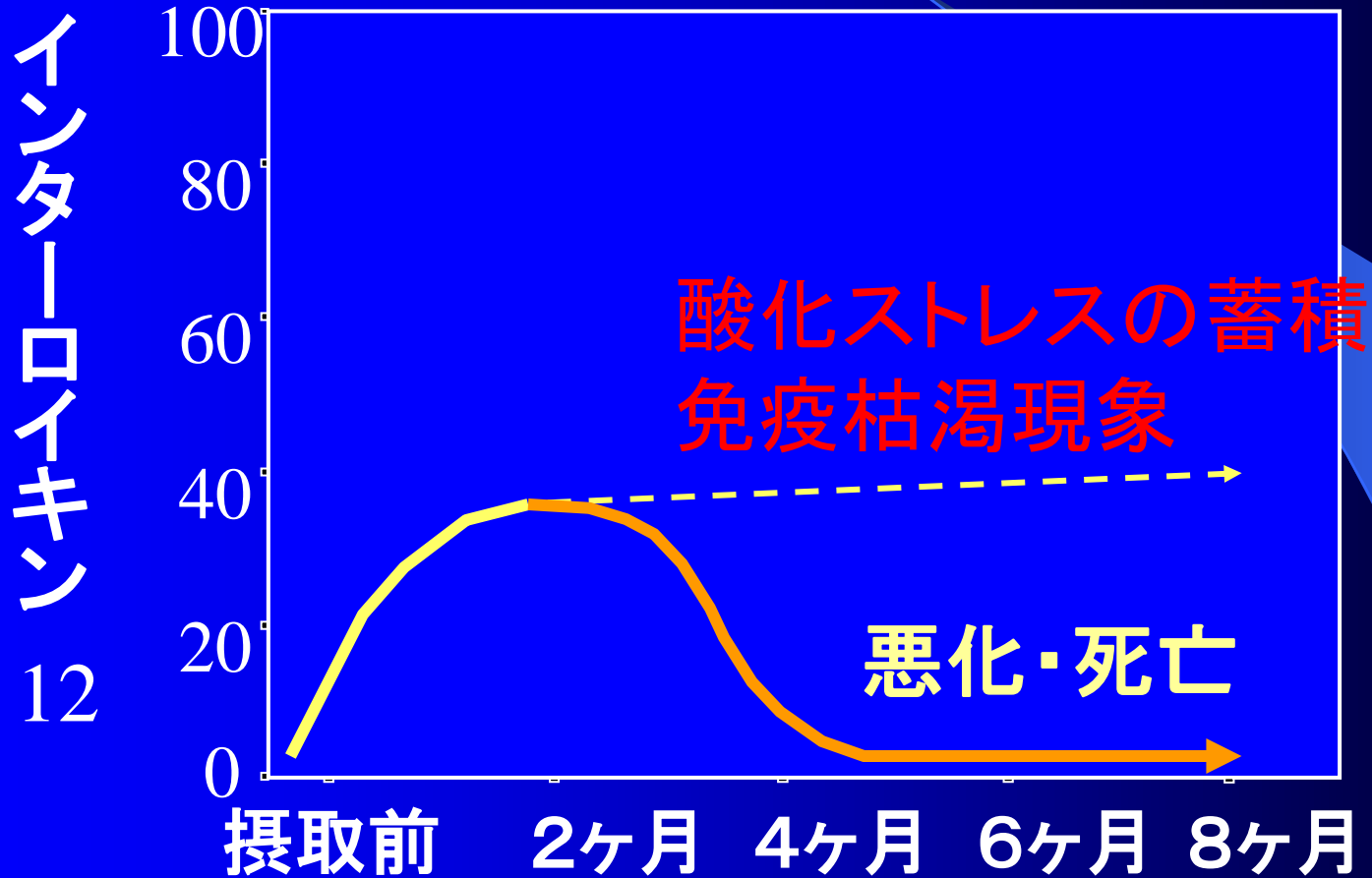
サイトカインを増やす方法は？

- リンパ球を良く刺激 (鹿角霊芝成分： β -グルカン)
 - 効率よく刺激をあたえて働かせる
- リンパ球の内部環境を調節 (宝寿仙の成分)
 - リンパ球を疲れさせず、バランスを保つ

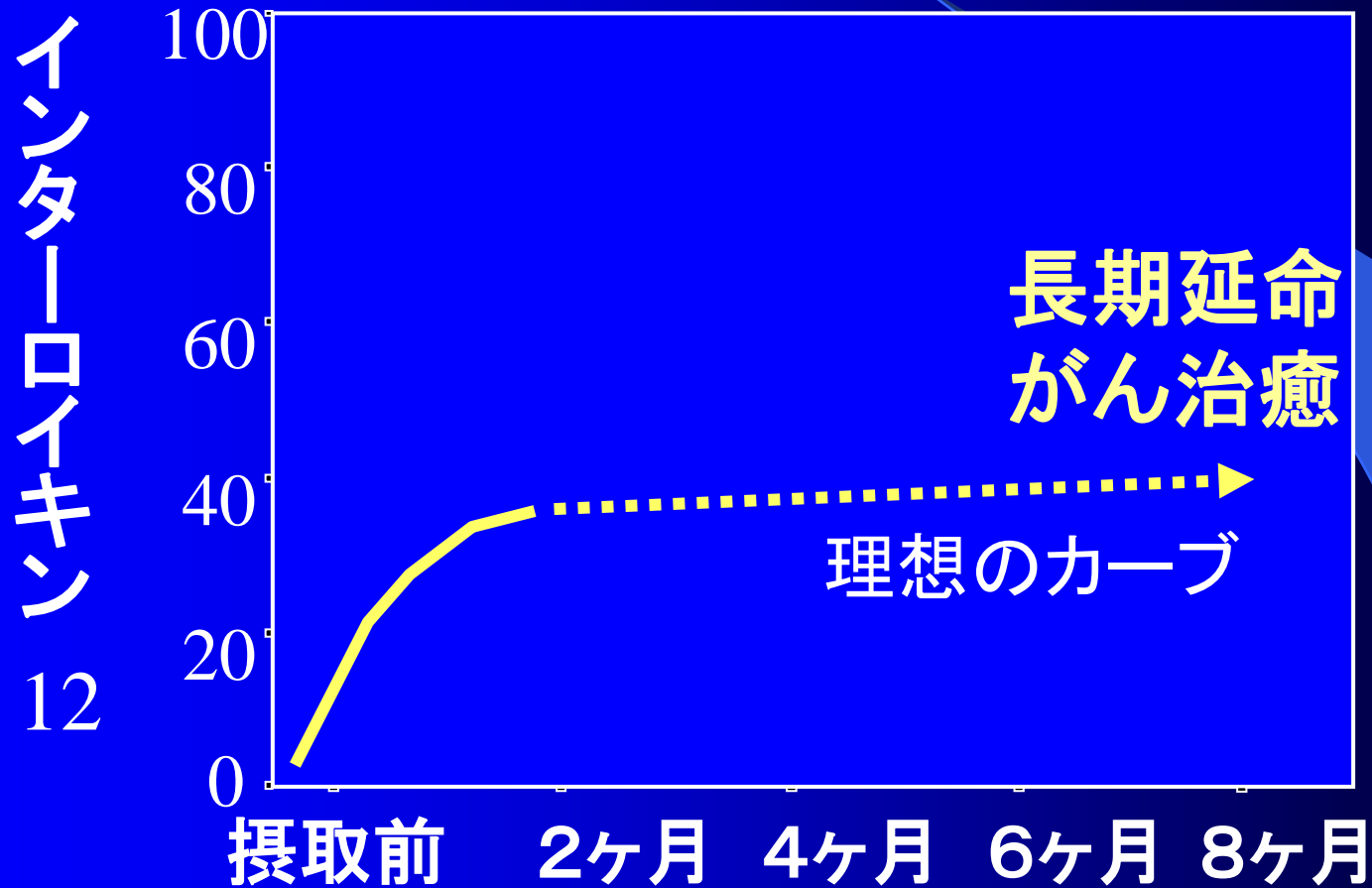
β -グルカン：リンパ球刺激作用



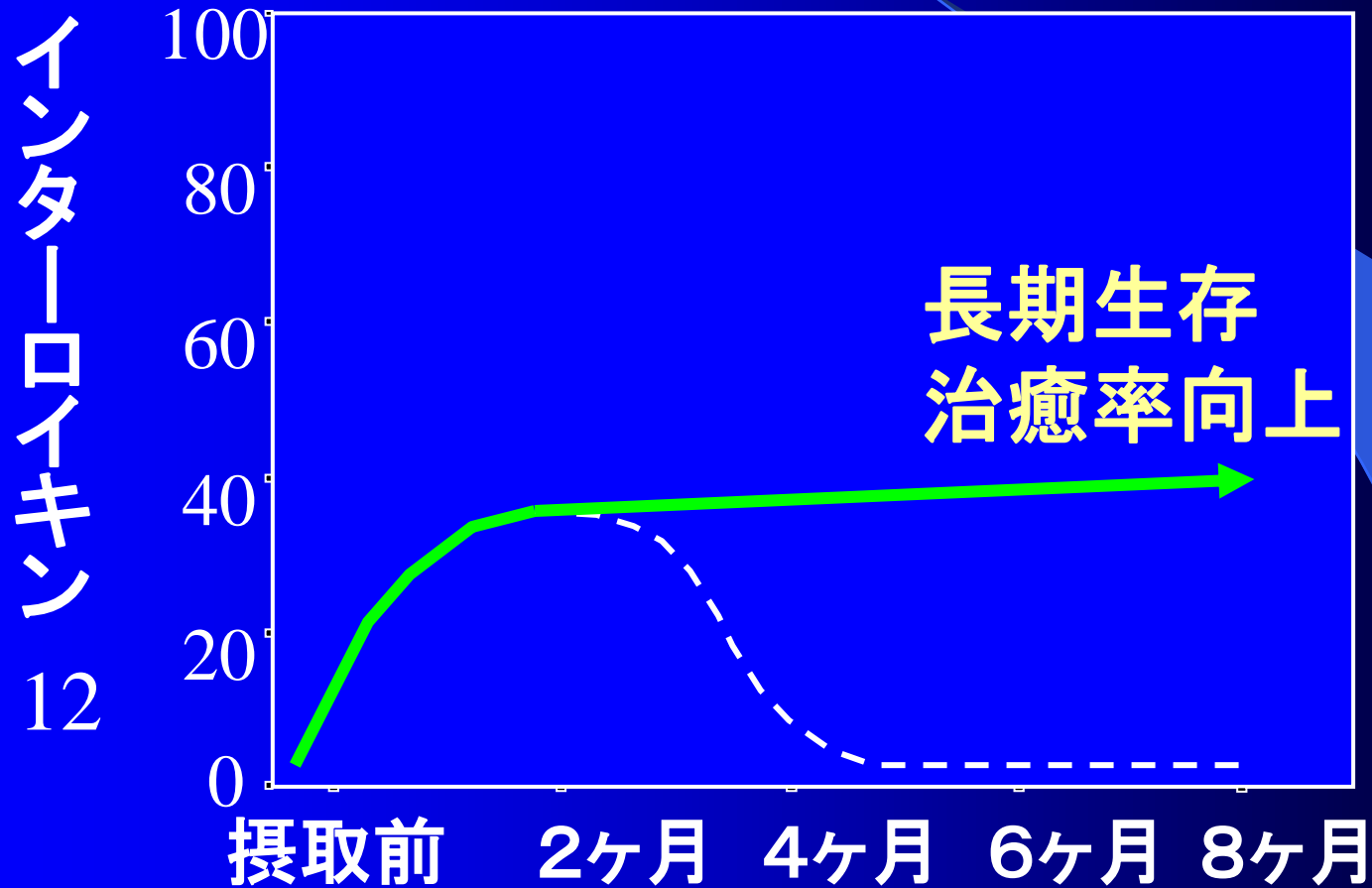
β -グルカン成分の弱点： 長期間の維持不可能



免疫栄養補給で期待する効果



免疫栄養補給療法で強化・維持



免疫栄養補給処方・・・宝寿仙 (君臣佐使原則配合)

- 免疫能の強化
- 淋巴细胞内部的环境調節
- 免疫系の栄養補給
- 免疫枯渇現象を回避
- 癌細胞自然死亡誘導
- 細胞内抗酸化機能
- 免疫抑制の解除

宝寿仙



「淋ba球調整・安定化作用」

- 免疫栄養補給、免疫枯渇の防止
 - 鹿角靈芝の効果を最大化活用
- 淋ba球抗酸化、機能維持
 - 宝寿仙の免疫栄養成分と抗酸化作用

免疫治療効果の強化と長期維持！

《 β -靈芝多糖的王者 · · · 鹿角靈芝》

在大自然中栽培出的仙藥

(熊本原木栽培)



《 β -靈芝多糖的王者 · · 鹿角靈芝



従来の靈芝



鹿角靈芝(熊本産)



《有効成分 β -靈芝多糖含有量比較》

9.0%

53.1%

熊本産



国内産



中国産



《鹿角靈芝の有効成分》

β-グルカン

テルペノイド類

有機ゲルマニウム

ガノデラン

ヌクレオチド

ステロイド

ペプチドグリカン

プロテオグリカン

ラノスタン系化合物

アデノシン

レクチン

核酸

《β-グルカン以外の有効成分比較》

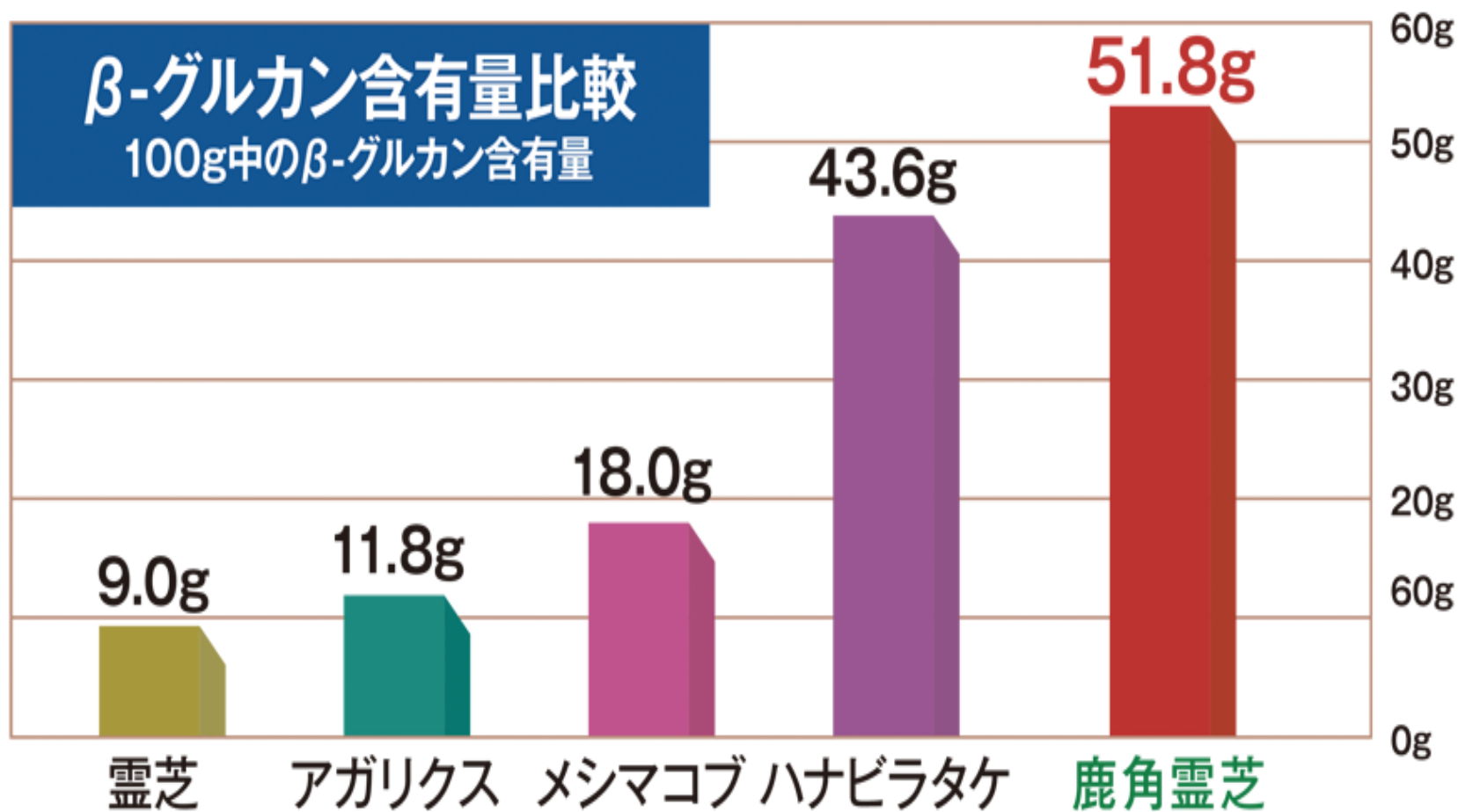
きのこ名	その他の有効成分
アガリクス	ヘテログリカン、レクチン、核酸、ステロイド
メシマコブ	見当たらず
ヤマブシタケ	SOD活性成分、ヘリセノン、エリナシン
ハナビラタケ	見当たらず
鹿角霊芝	苦味成分テルペノイド類、ガノデラン、有機ゲルマニウム、ヌクレオチド、ステロイド、ペプチドグリカン、プロテオグリカン、ラノスタン系化合物、アデノシン、レクチン、核酸

《鹿角靈芝の特徴：豊富な有効成分》

- β-グルカン**.....免疫力を高める作用。子実体中50%以上含有。
- テルペノイド類**抗がん作用、増毛作用がある。
- ガノデラン**血糖を安定させる作用がある。
- ヌクレオチド**.....抗血栓作用、肝機能を保護する作用がある。
- プロテオグリカン**血糖を低下させる作用がある。
- ペプチドグリカン**血圧を安定させる作用がある。
- ステロイド**抗腫瘍作用がある。
- 有機ゲルマニウム** ...抗酸化作用、痛みを軽減する作用がある。
- ラノスタン系化合物**抗ヒスタミン、抗アレルギー作用があると。
- 植物ステロール**痔、便秘、動脈硬化、倦怠感、肩こり、頭痛、虫歯
予防などの効果がある。

《β-グルカン含有量比》

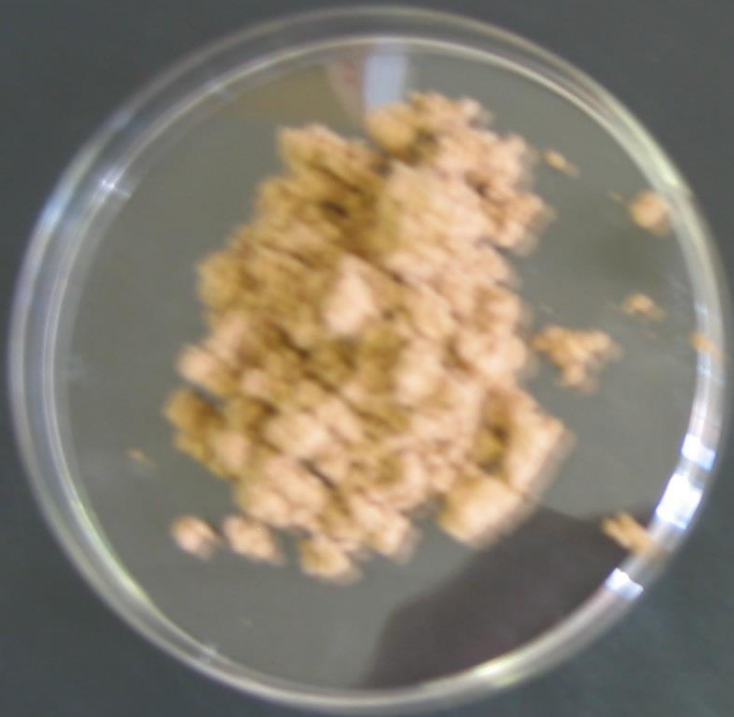
β-グルカン含有量比較
100g中のβ-グルカン含有量



※鹿角霊芝の分析は(財)に本食品分析センター

細胞壁破碎・3ミクロン粉碎技術

(水溶性 β -グルカン抽出法特許出願中)



従来の粉碎加工法により
水溶性 β -グルカン
抽出が0.02%以下



細胞壁破碎・3ミクロン
粉碎技術により水溶性 β -
グルカン抽出が5.0%以
上

鹿角靈芝の免疫増強作用・ ガン抑制作用



β -グルカン

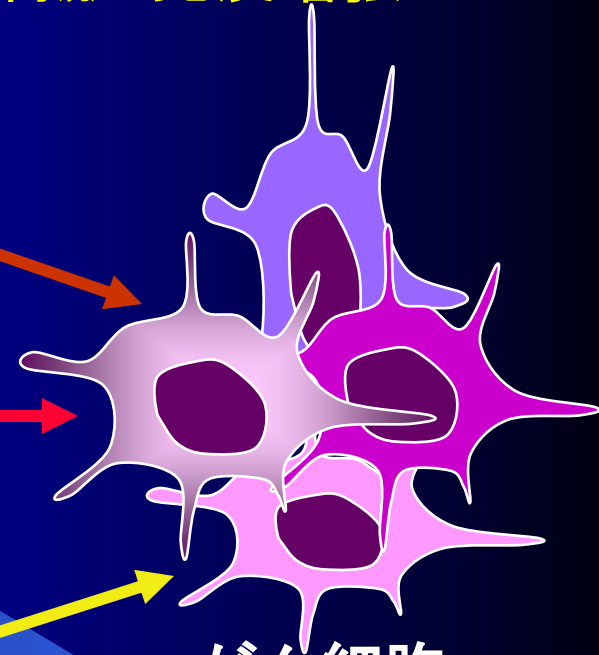
抗癌の免疫細胞を刺激・免疫増強

テルペノイド類
ステロイド

癌細胞を抑制

有機ゲルマニウム

免疫増強
抗酸化



がん細胞

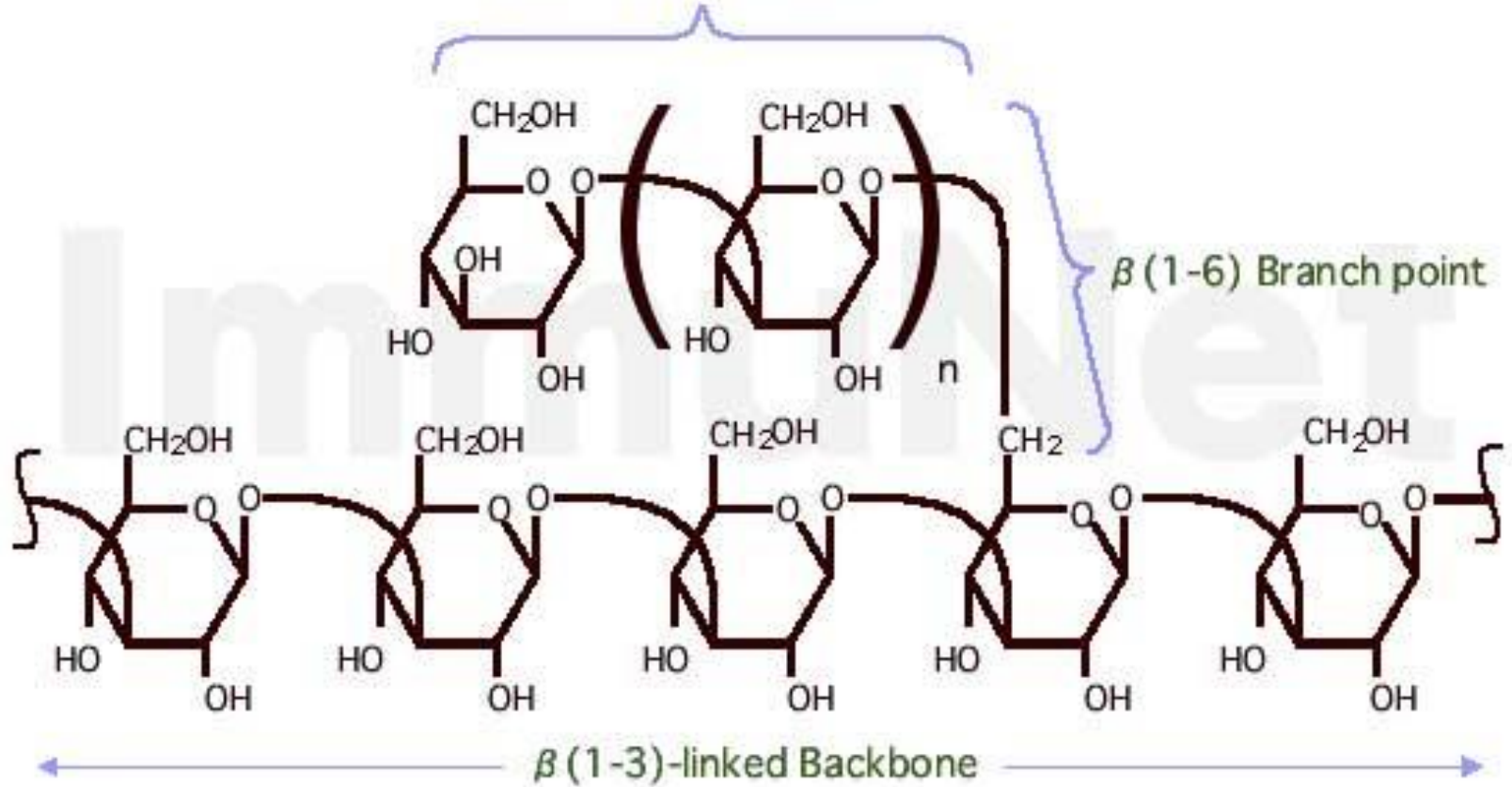
β -グルカン (鹿角靈芝)





《免疫細胞が、ガン細胞(赤い部分)
を死に追いやった図》

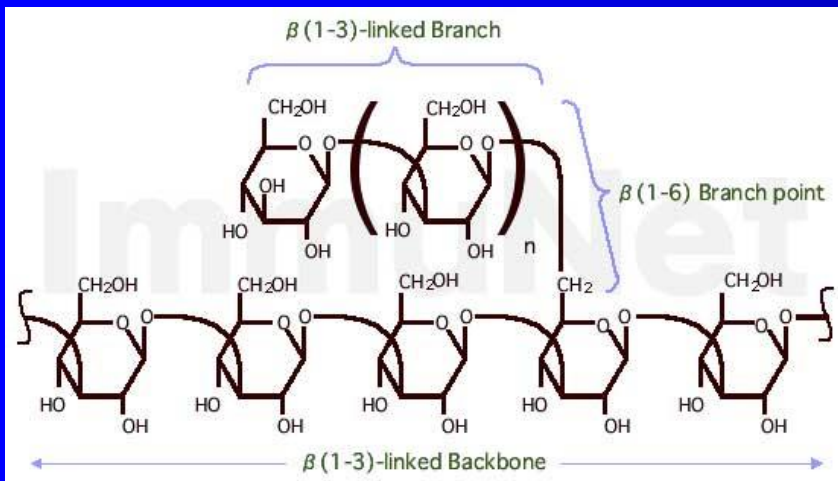
β (1-3)-linked Branch



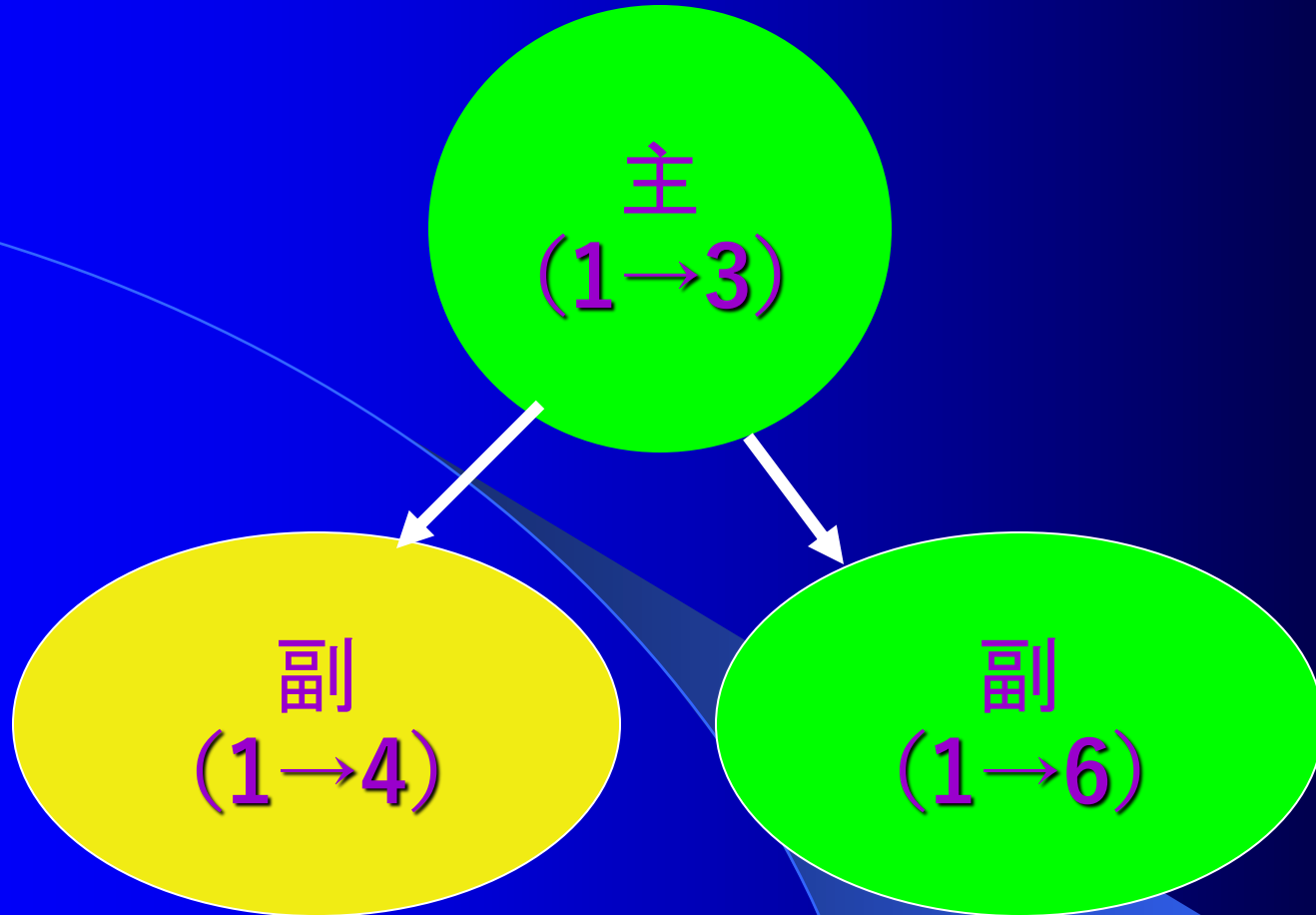
《鹿角靈芝の免疫増強作用》

β - (1 \rightarrow 3)
グルカン
(45g/100g)

β - (1 \rightarrow 4)
グルカン
(7g/100g)

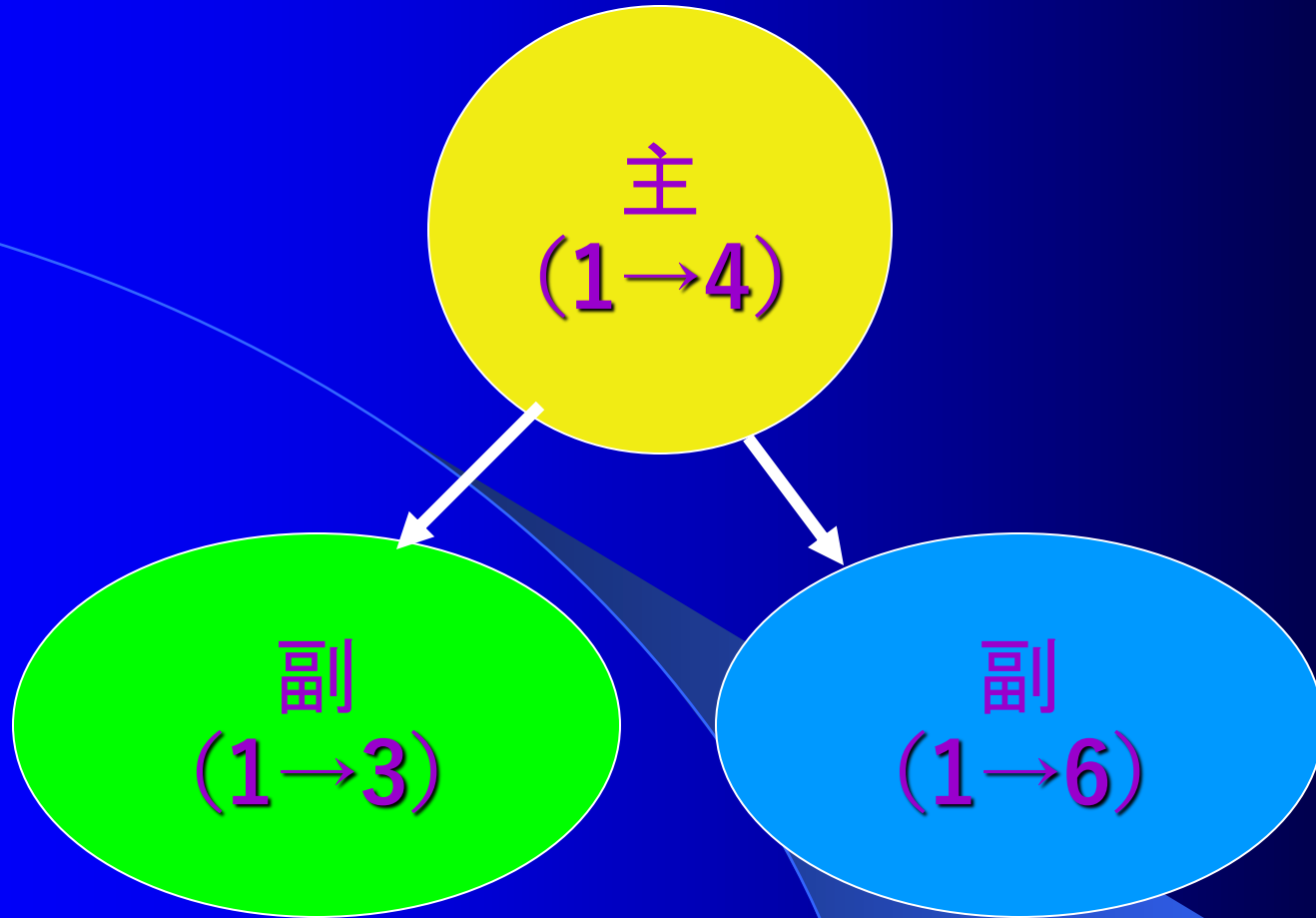


β - (1→3) Dグルカン



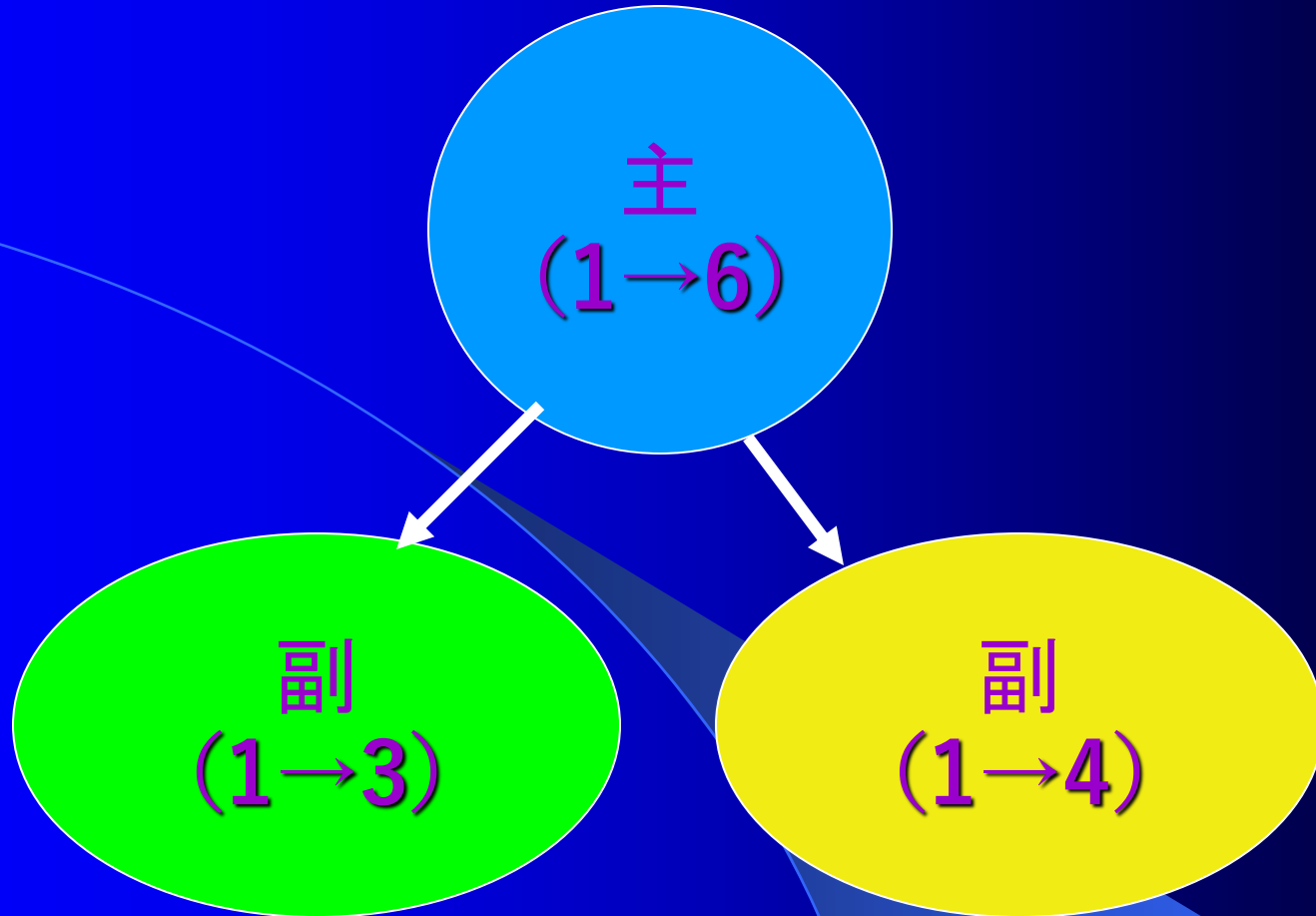
鹿角靈芝、ハナビラダケ
 β - (1→3) Dグルカン主鎖

β - (1→4) Dグルカン



メシマコブ、霊芝、ヤマブシダケ、
 β - (1→4) Dグルカン主鎖

β - (1→6) Dグルカン



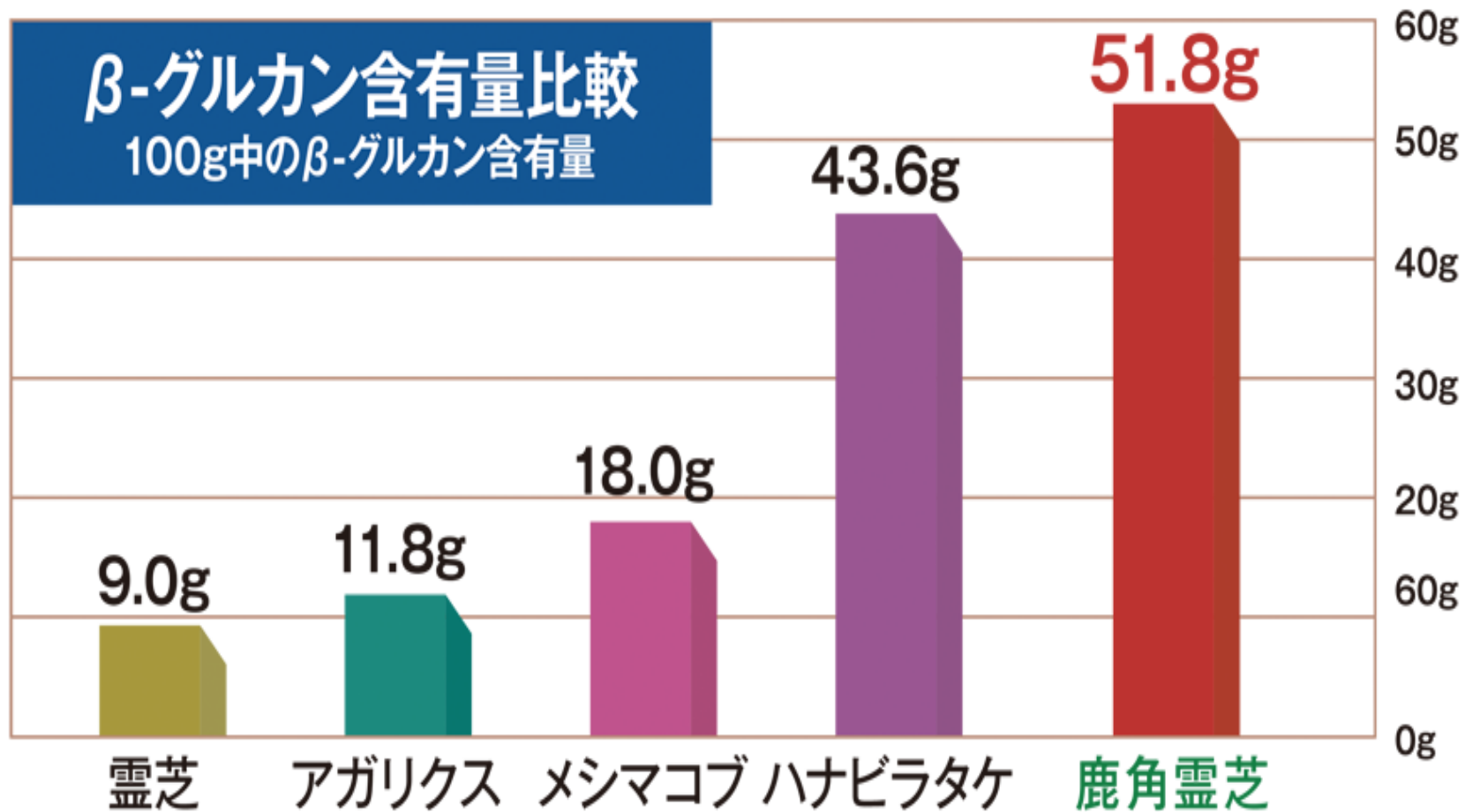
シイタケ、マイタケ、アガリクス
 β - (1→6) Dグルカン主鎖

《鹿角靈芝の β -Dグルカン含有量の内訳》

β - (1→3) グルカン	45g/100g
β - (1→4) グルカン	7g/100g
β - (1→6) グルカン	2g/100g

(株)東レ 生物科学研究部の分析報告書による

(財) 日本食品分析センター分析試験による
β-グルカン含有量比較 (100g中)



※鹿角霊芝の分析は(財)に本食品分析センター

ガン細胞

活性化・攻撃

キラーT細胞

活性化の
NK細胞

NK細胞

インターロイキン12

インターフェロン γ

マクロファージ
樹状細胞

情報提供

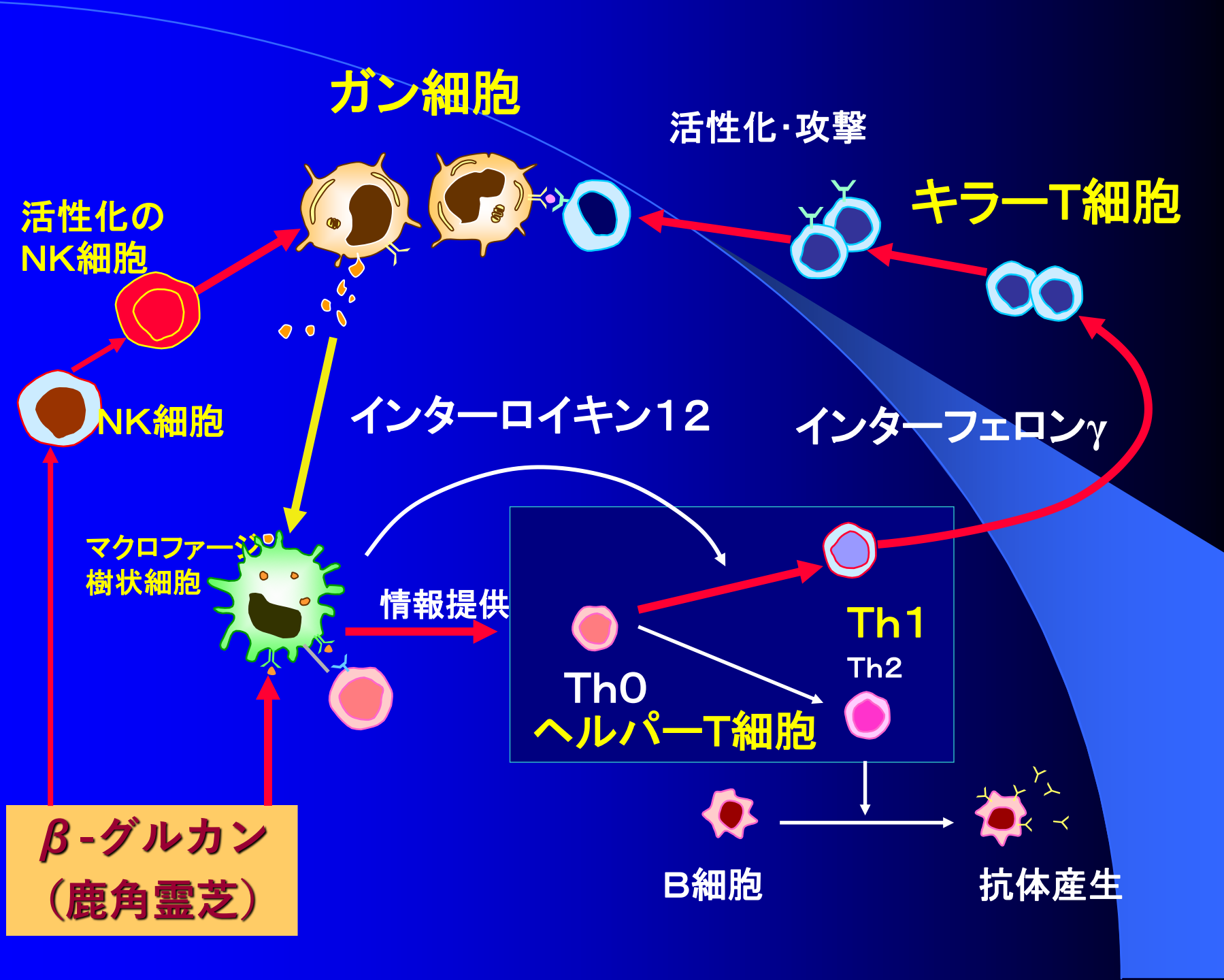
Th0
ヘルパーT細胞

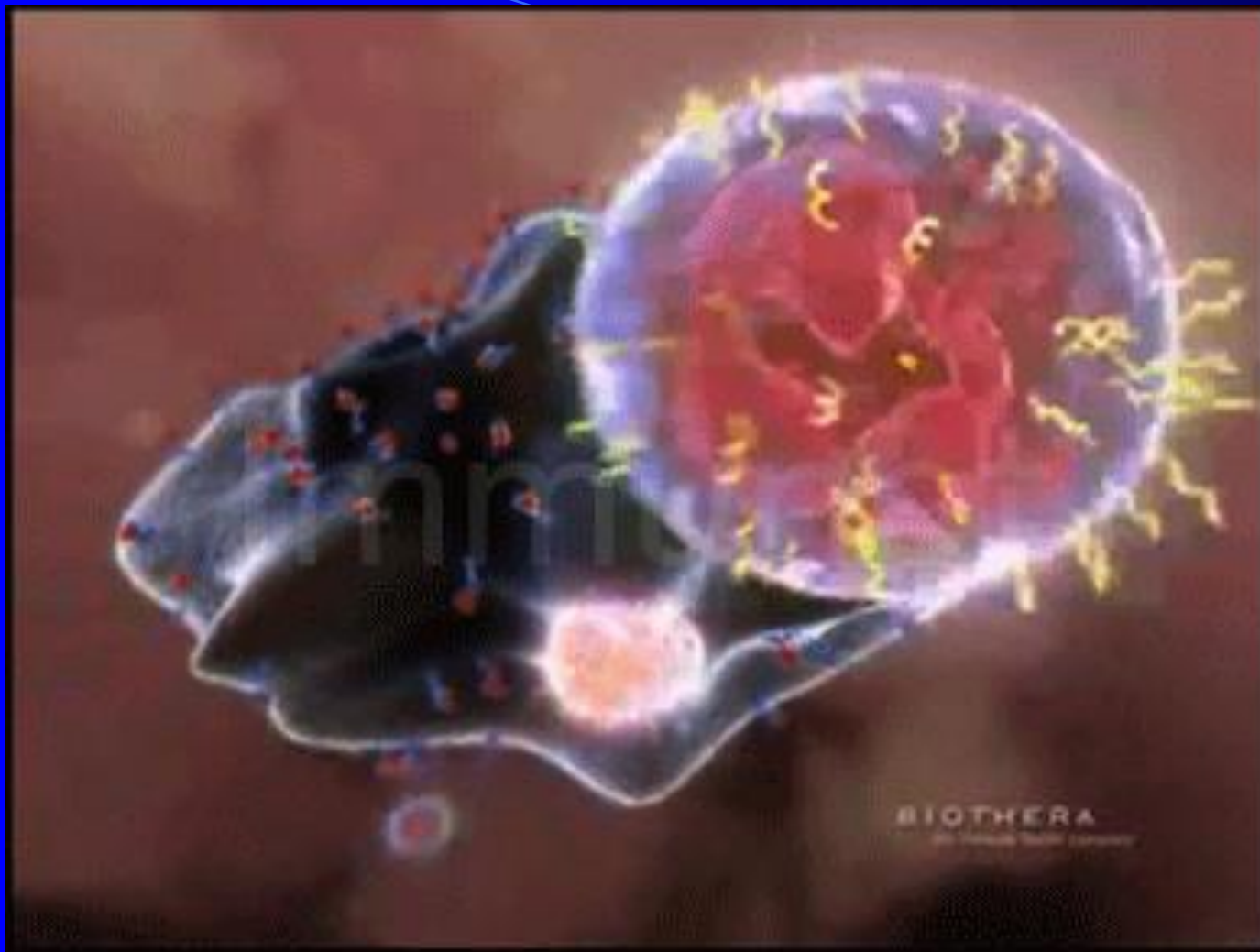
Th1
Th2

β -グルカン
(鹿角靈芝)

B細胞

抗体産生





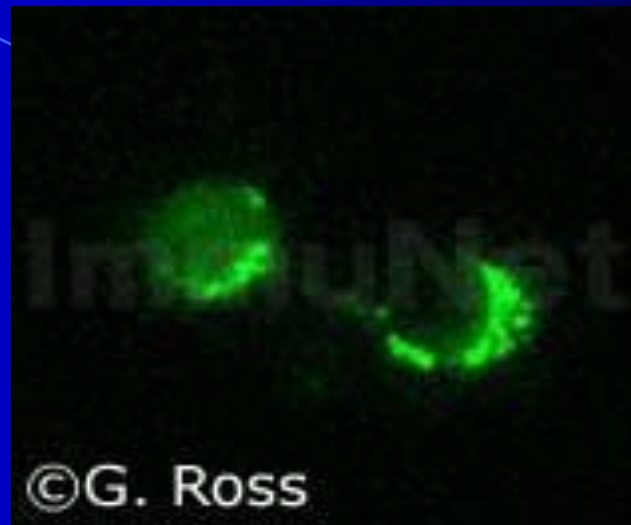
口から入って消化器を通過した β グルカンは小腸管壁にあるパイエル板という組織を介して小腸壁の粘膜に集まっている免疫細胞に到達すると言われていています。その仕組みは下記の図のようなものです。

β 1,3Dグルカン微粒子と免疫細胞の詳しい仕組み

脾臓のマクロファージ細胞



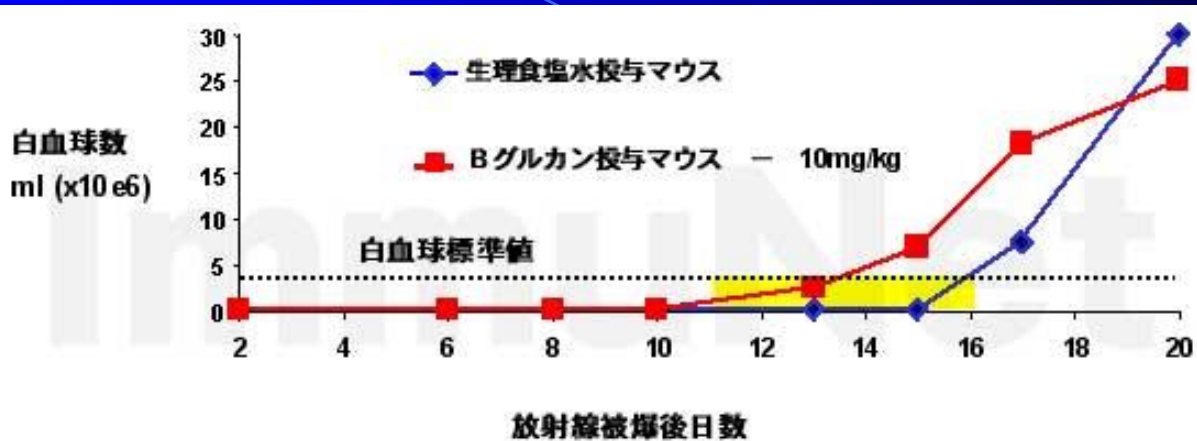
骨髄のマクロファージ細胞



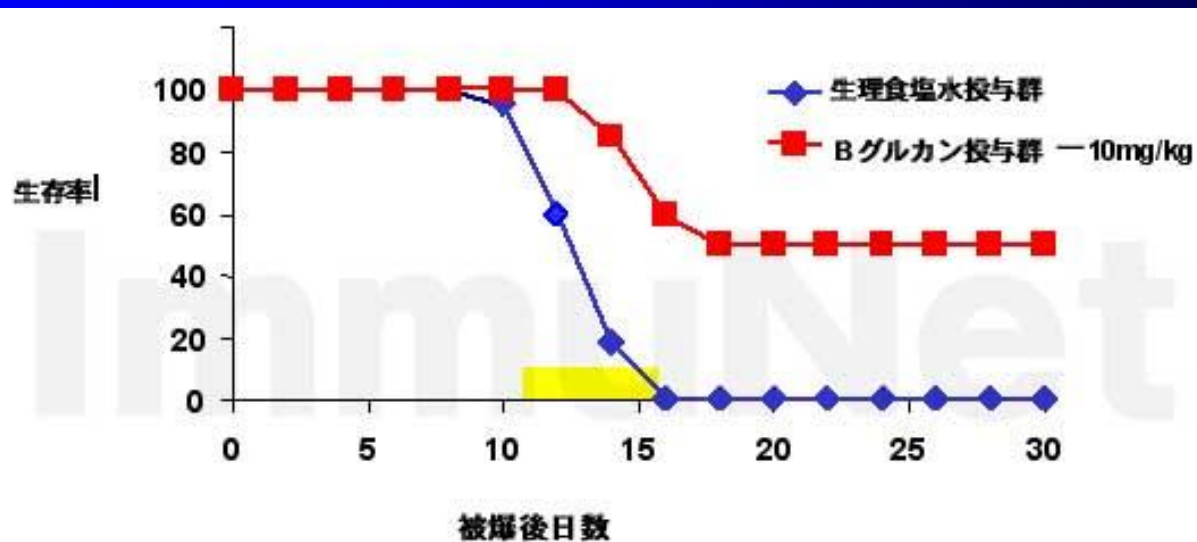
実験動物に β グルカンを投与した3日後、ラットの脾臓に見られたマクロファージ細胞内に β グルカンの細粒子を確認しました。12日後にはラット骨髄のマクロファージ細胞内にも β グルカンの細粒子を確認しました。

このメカニズムは、米国レイビル大学ジェームズ・ブラウン癌センターのゴードン・ロス博士等研究陣によるマウス経口投与実験で世界初の顕微鏡写真が明らかにされています。

β 1,3Dグルカンと放射線防護効果

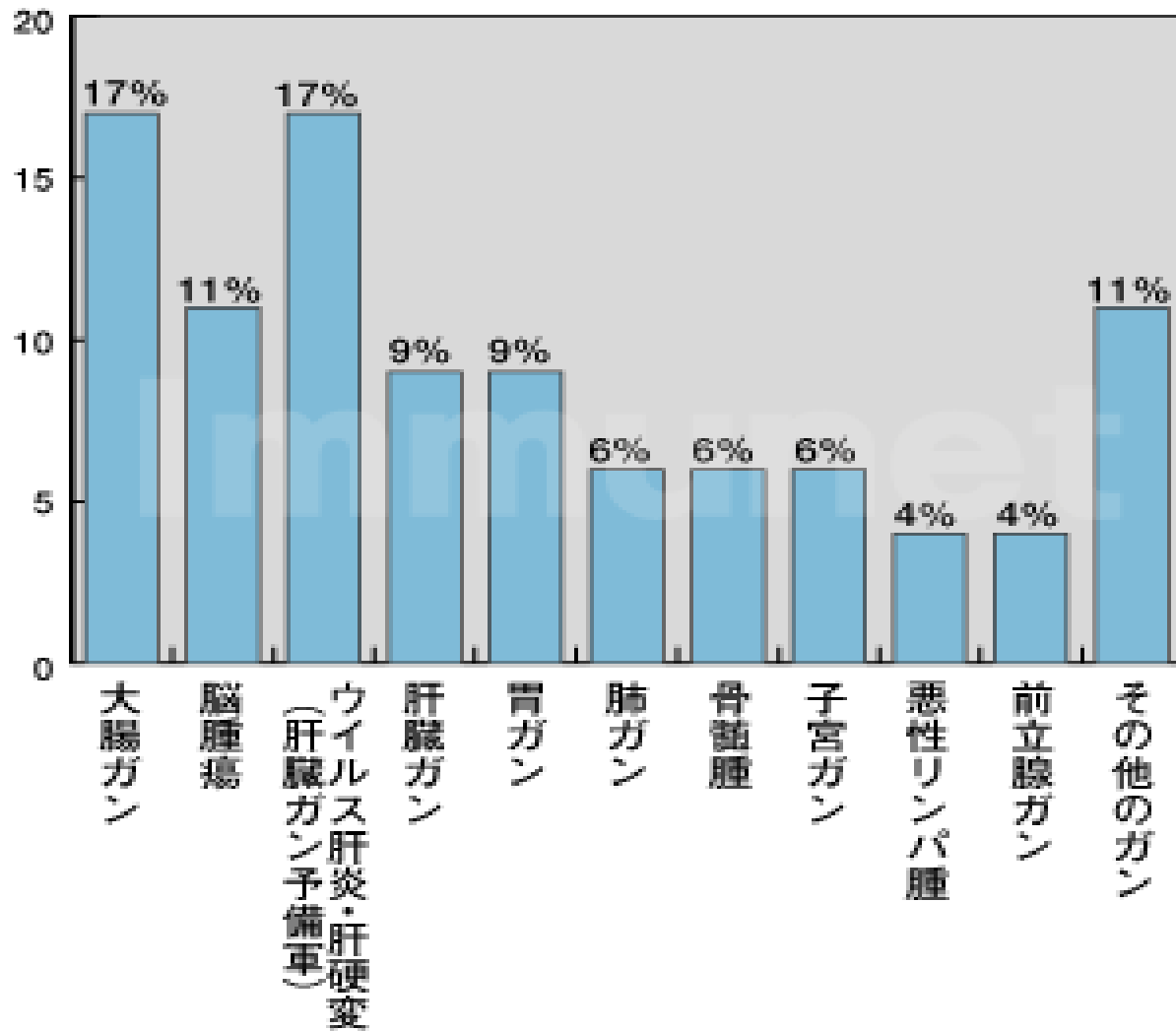


M. Patchen, Alpha Beta Technology, Inc.

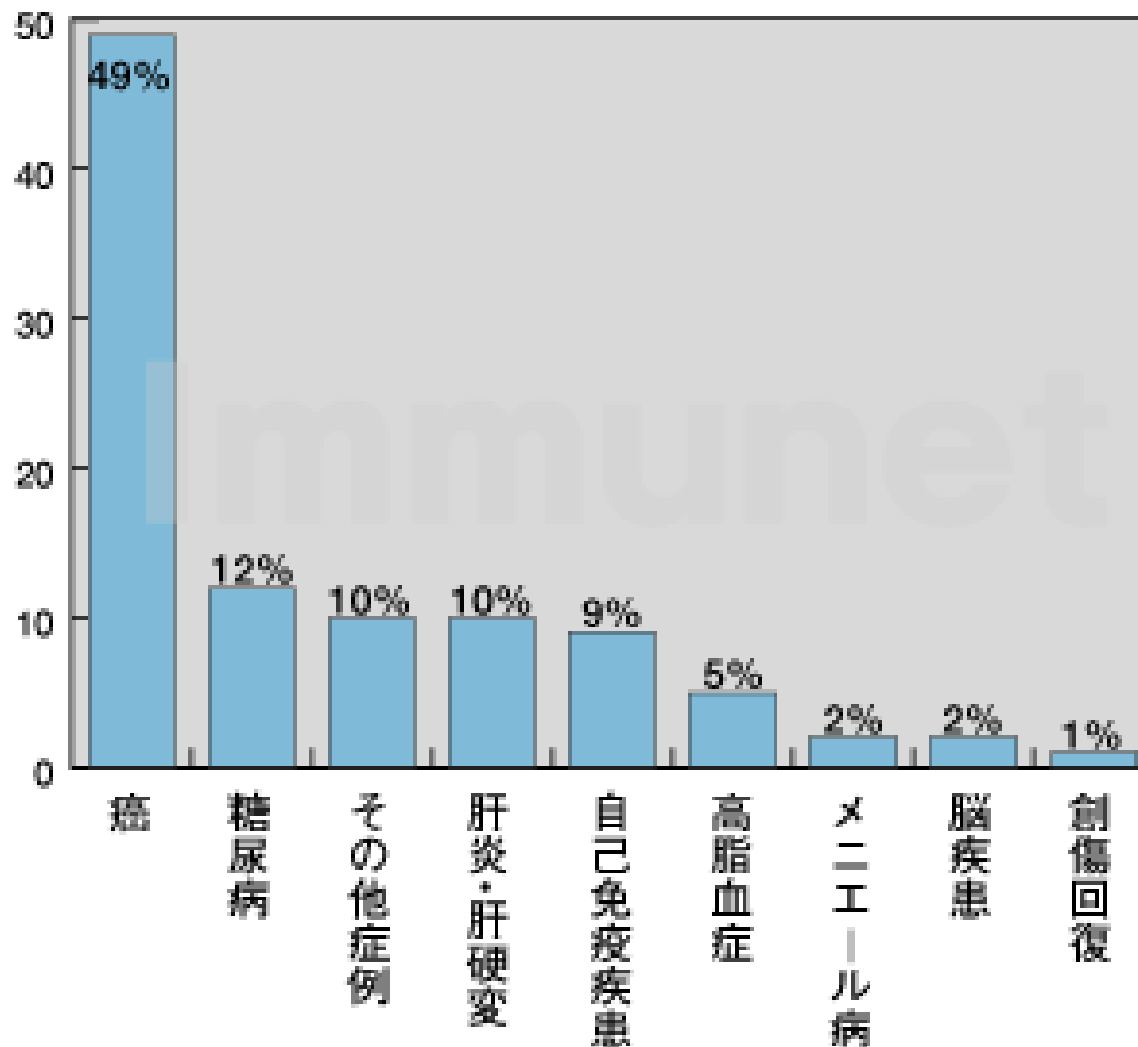


M. Patchen, Alpha Beta Technologies, Inc.

ベータグルカンによるガン改善報告例



ベータ1,3Dグルカン改善症例



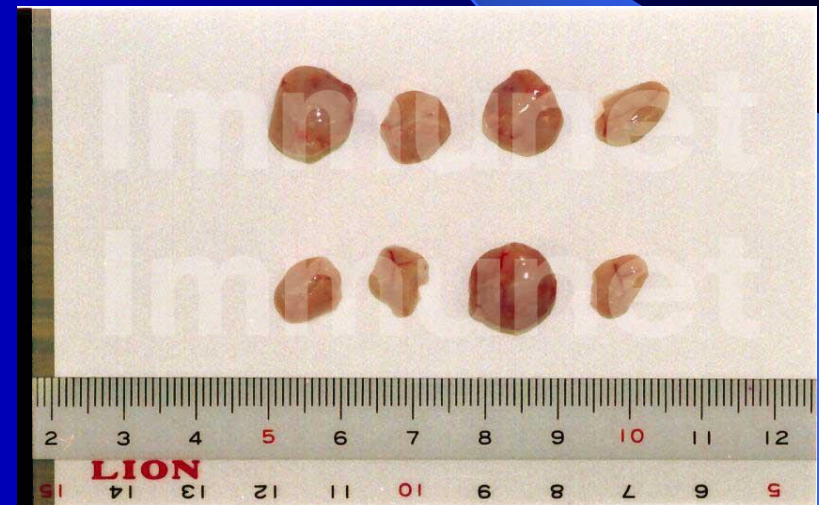
抗腫瘍効果に関する試験

腫瘍体積については、21日目においてコントロール群 $329.10 \pm 31.11 \text{mm}^3$ に対しベータ1,3-Dグルカン群 $253.34 \pm 41.11 \text{mm}^3$ と有意 ($p < 0.05$) に癌細胞の増殖を抑制した。

腫瘍重量では、コントロール群 $0.66 \pm 0.063 \text{g}$ に対しベータ1,3-Dグルカン群 $0.52 \pm 0.063 \text{g}$ と有意 ($p < 0.05$) に重量は抑制した。



コントロール群マウスの腫瘍体積



ベータ1,3Dグルカン投与群マウスの腫瘍体積

Fig.5 IL-2産生能

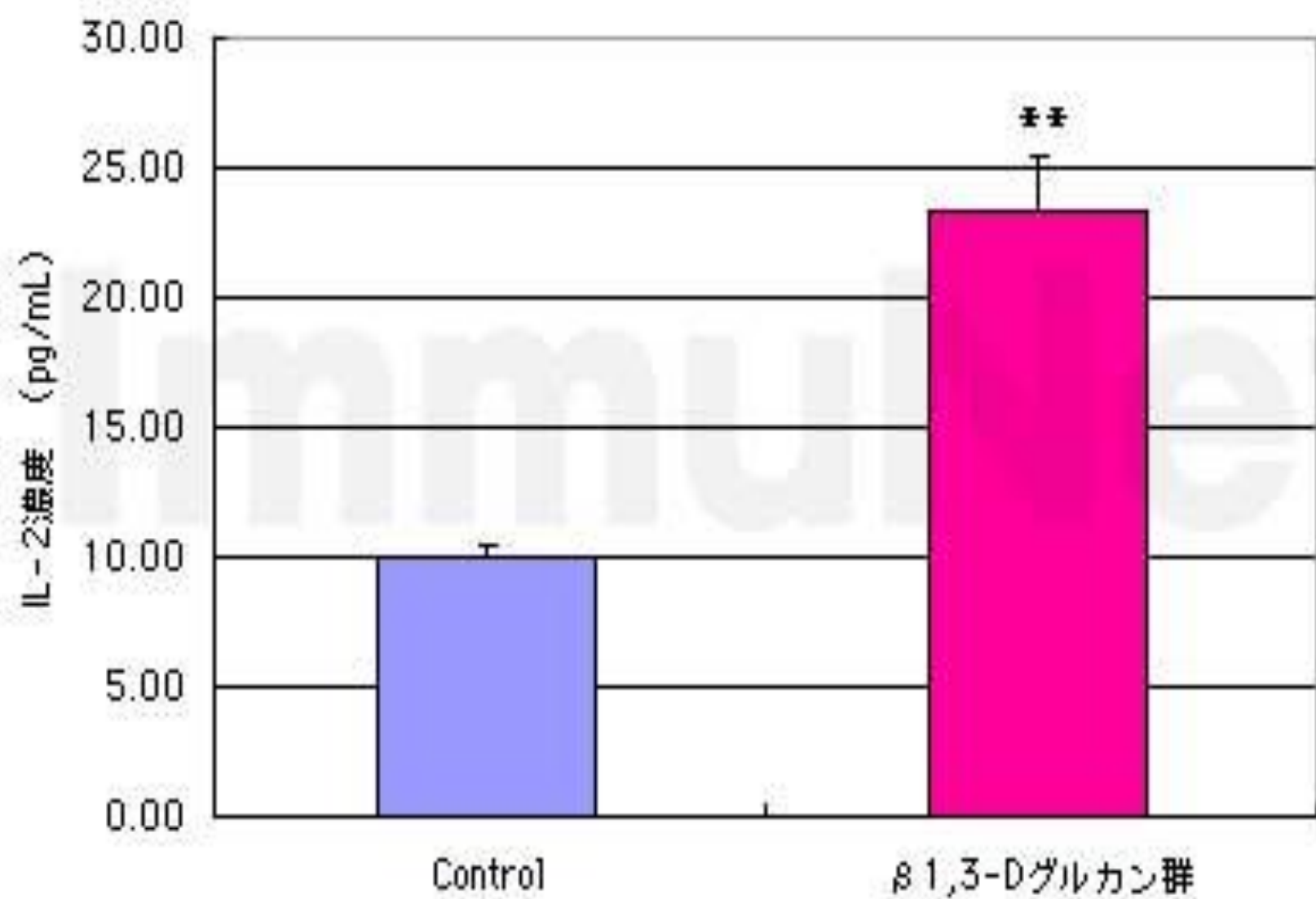


Fig.6 IFN- γ 産生能

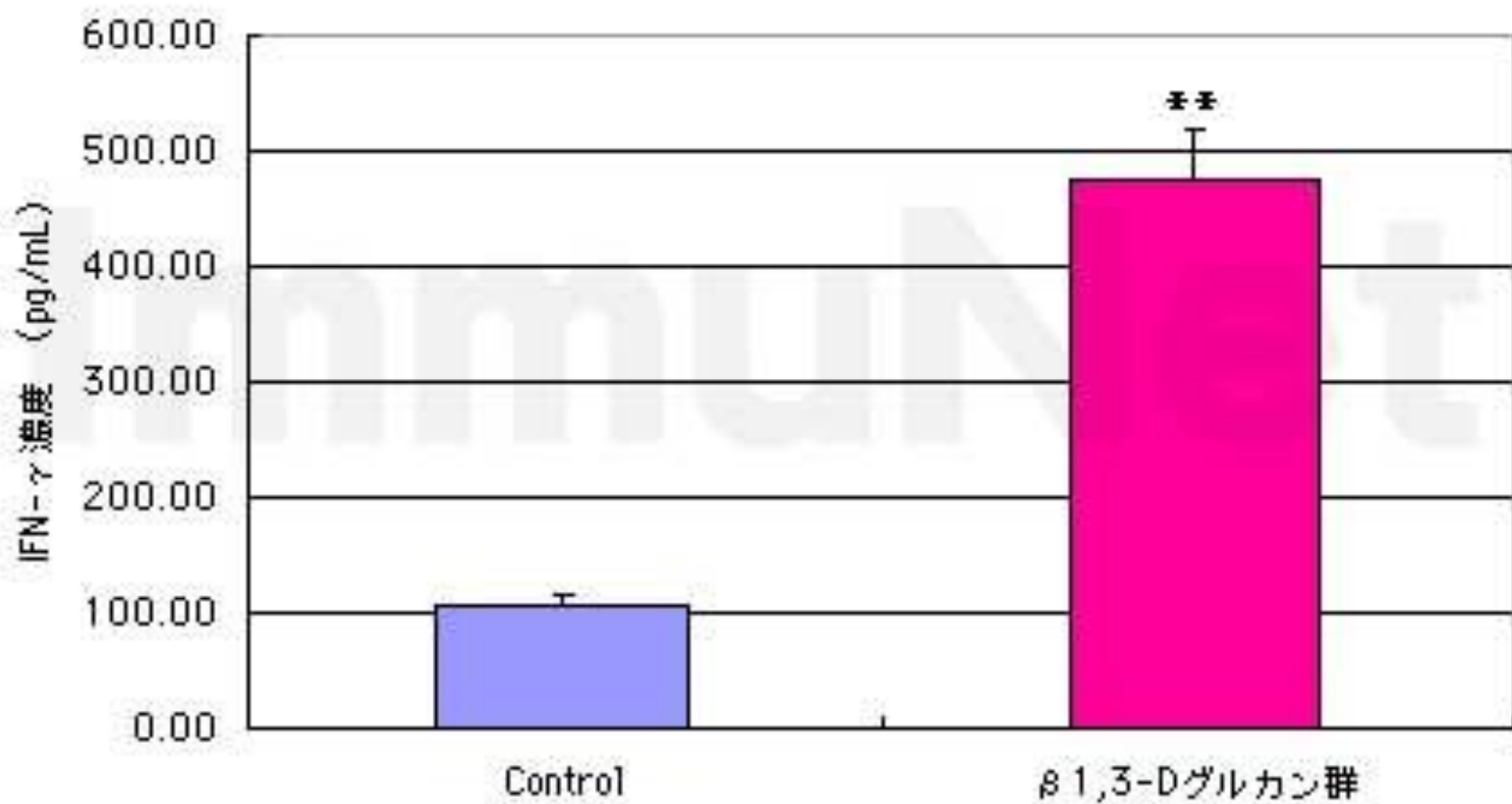
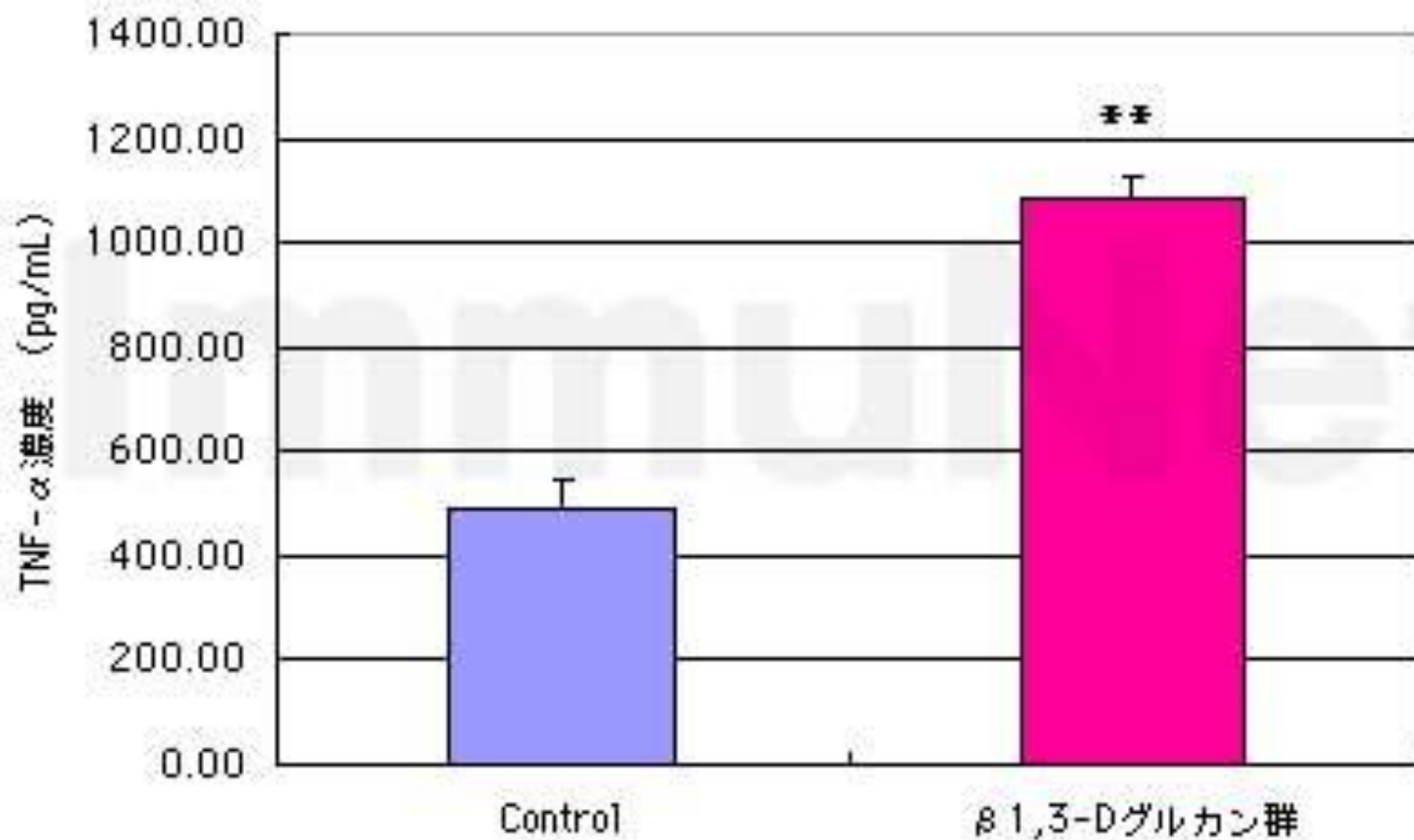
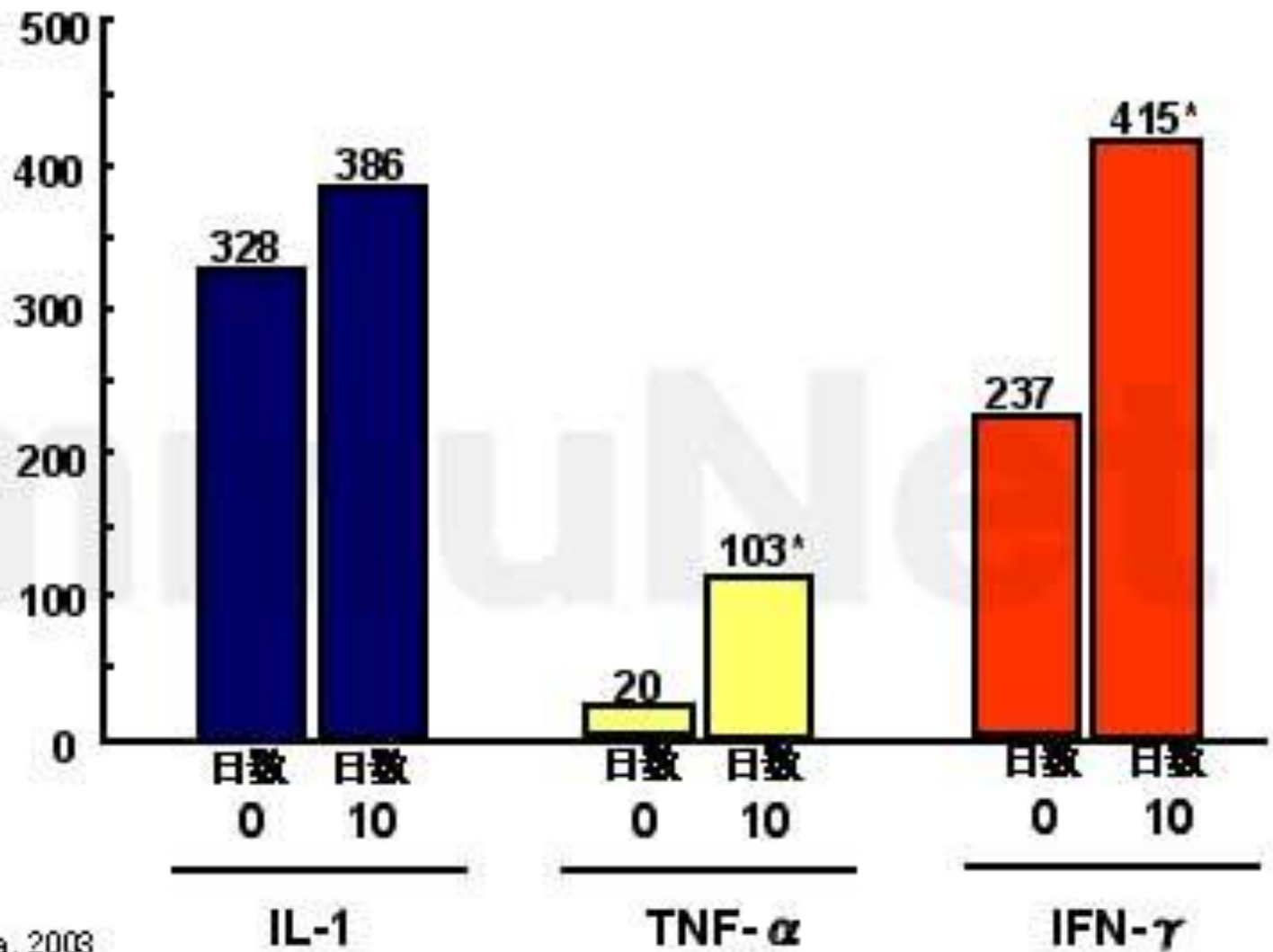


Fig.7 TNF- α 産生能



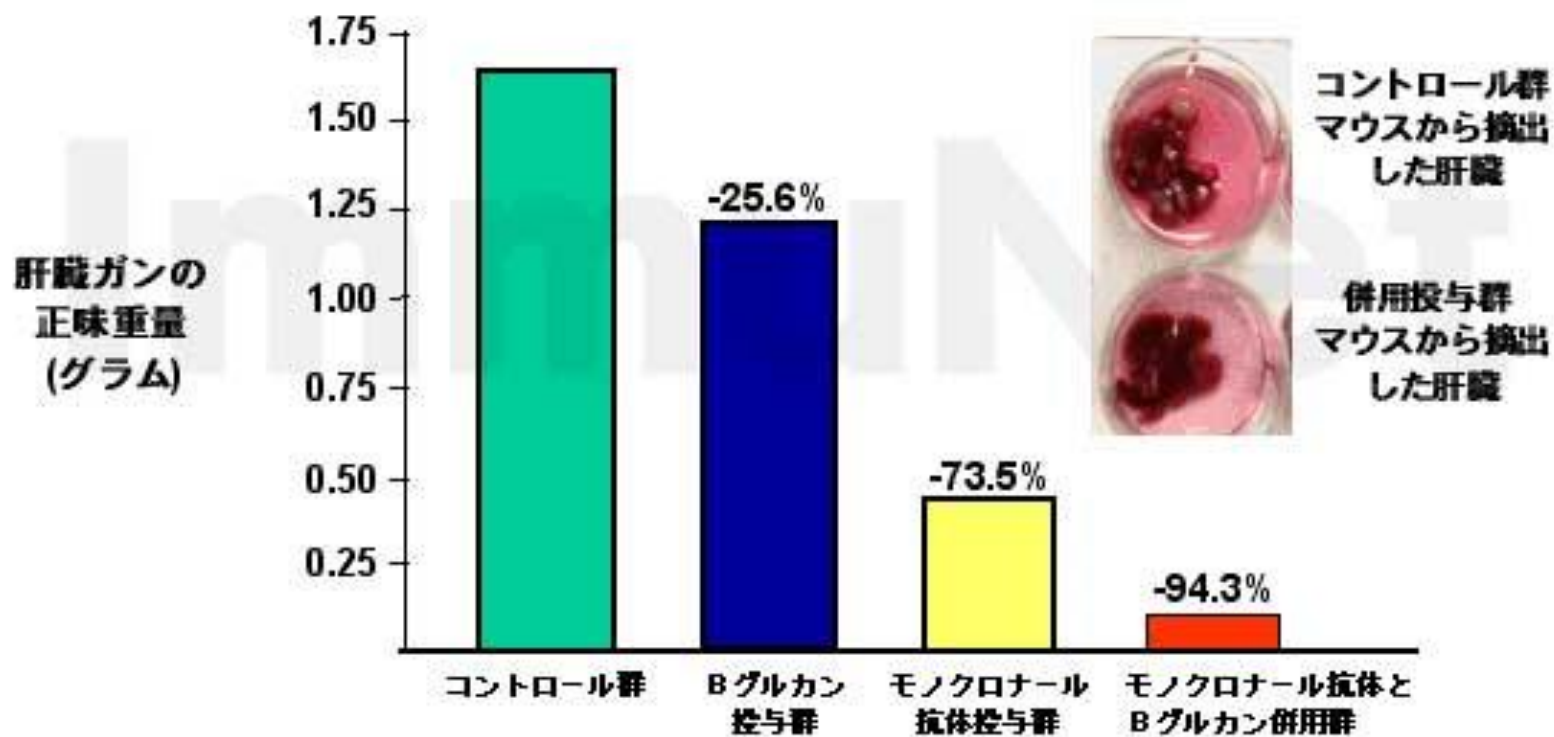
血中
サイトカイン
レベル
(pg/ml)



$p < 0.05$

Biophage Pharma, 2003

マウスリンパ腫での β 1,3Dグルカンとモノクローナル抗体治療薬(リツキシマブ)併用による腫瘍重量低減相乗効果

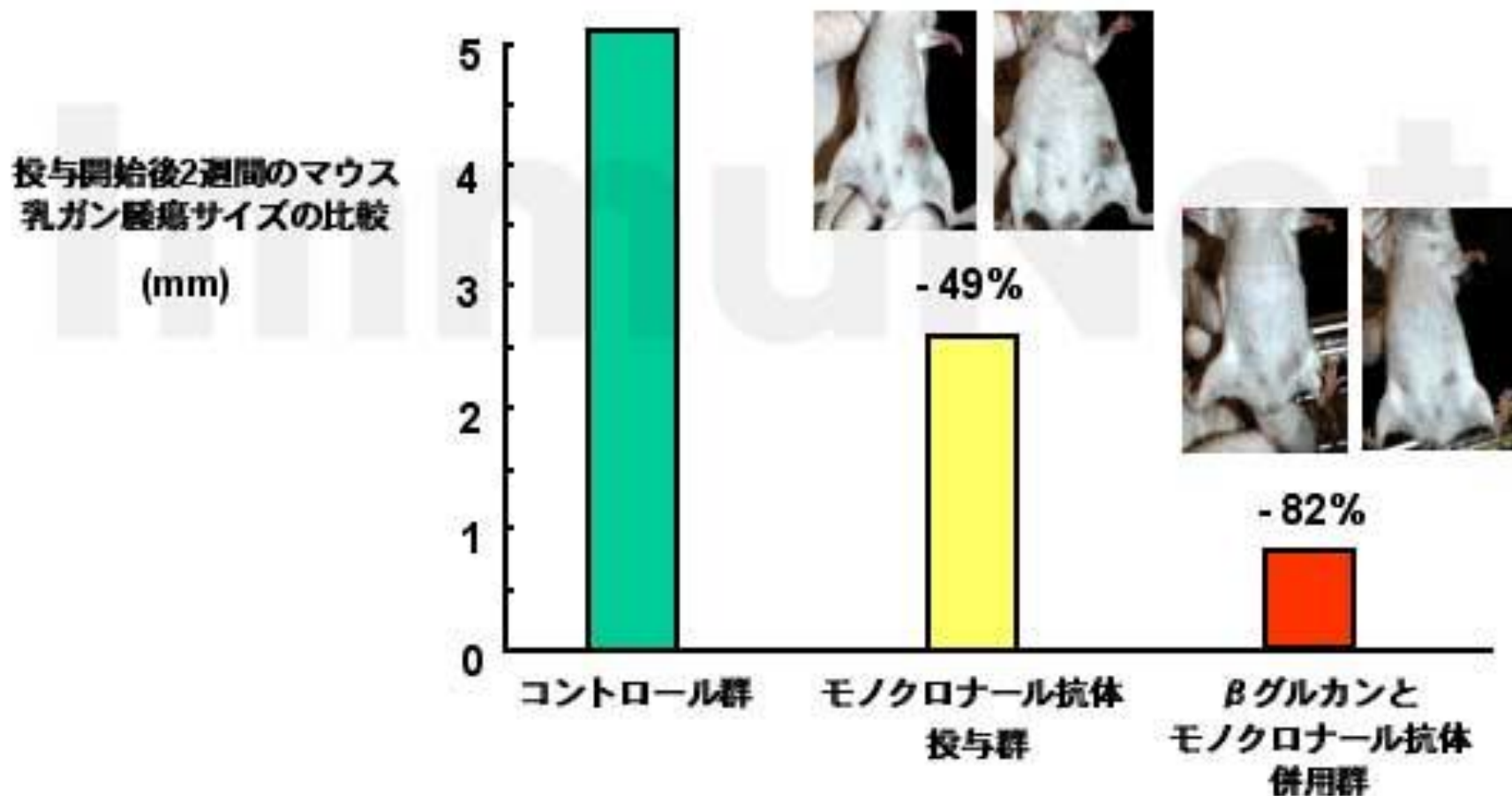


モノクローナル抗体 : 3F8 anti-GD2

対象群 : n=6

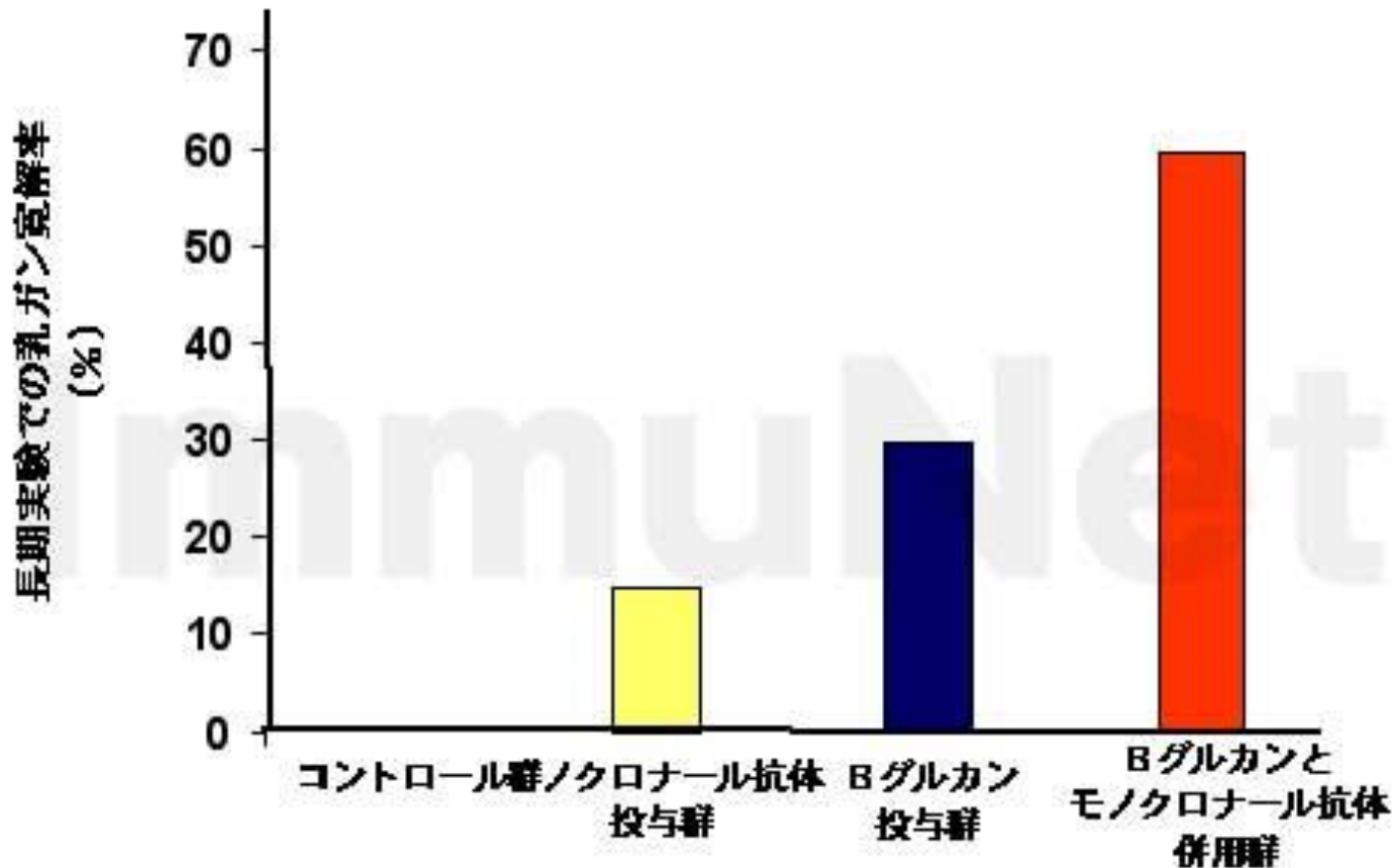
©all right reserved G.Ross, University of Louisville

β 1,3Dグルカンとモノクローナル抗体治療薬(トラスツズマブ)の併用によるマウス乳ガン成長抑制作用テスト結果



モノクローナル抗体：11C1 Mab anti-MMTV

βグルカンとモノクローナル抗体治療薬(トラスツズマブ)の長期併用投与による乳ガンの治癒率(寛解率)



テルペノイド類・ ステロイド (鹿角靈芝)



《鹿角靈芝の腫瘍抑制作用》

抗ガンの有効成分



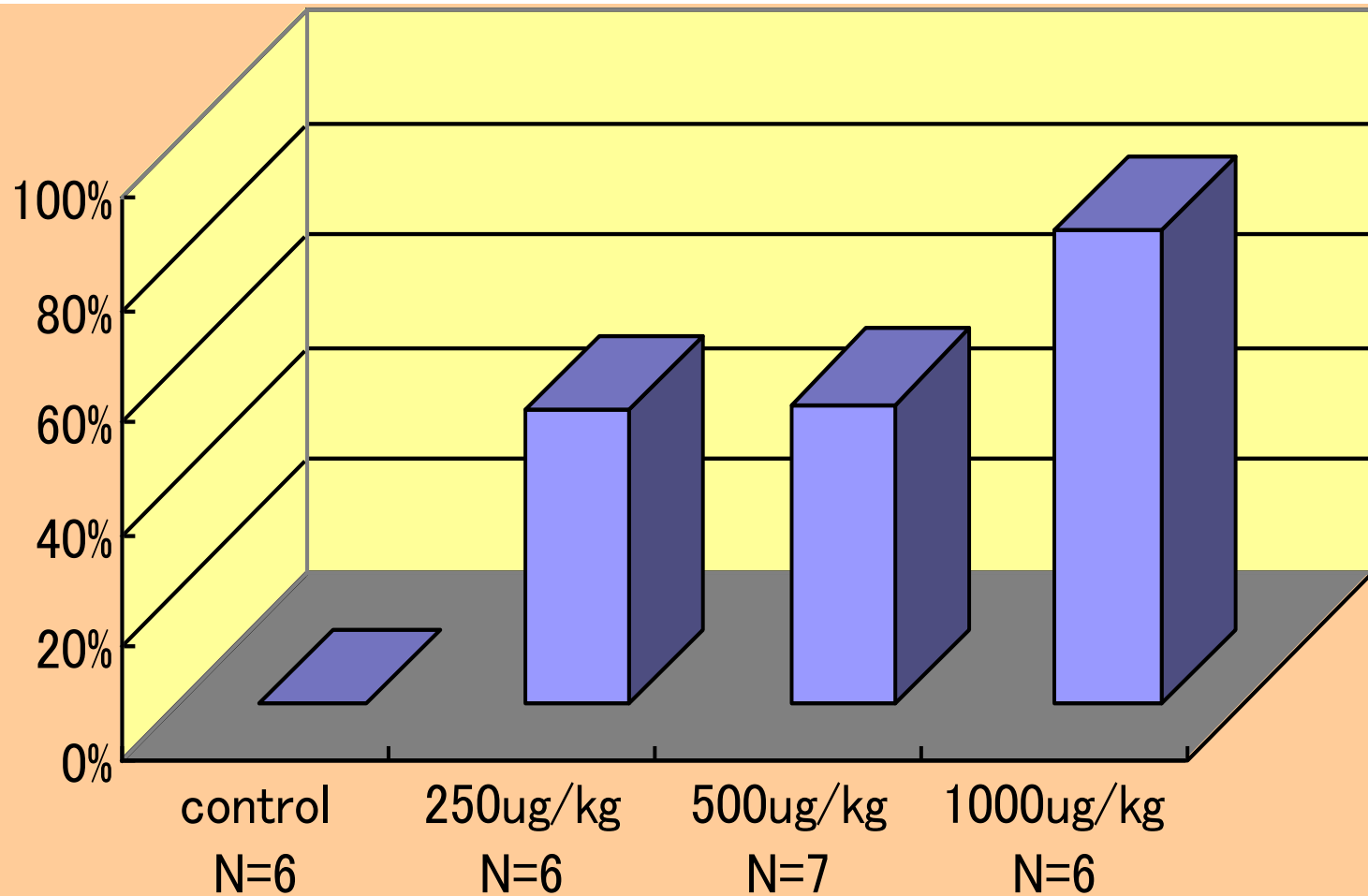
```
graph TD; A[抗ガンの有効成分] --> B(テルペノイド類); A --> C(ステロイド)
```

テルペノイド類

ステロイド

《鹿角靈芝の抑癌作用》

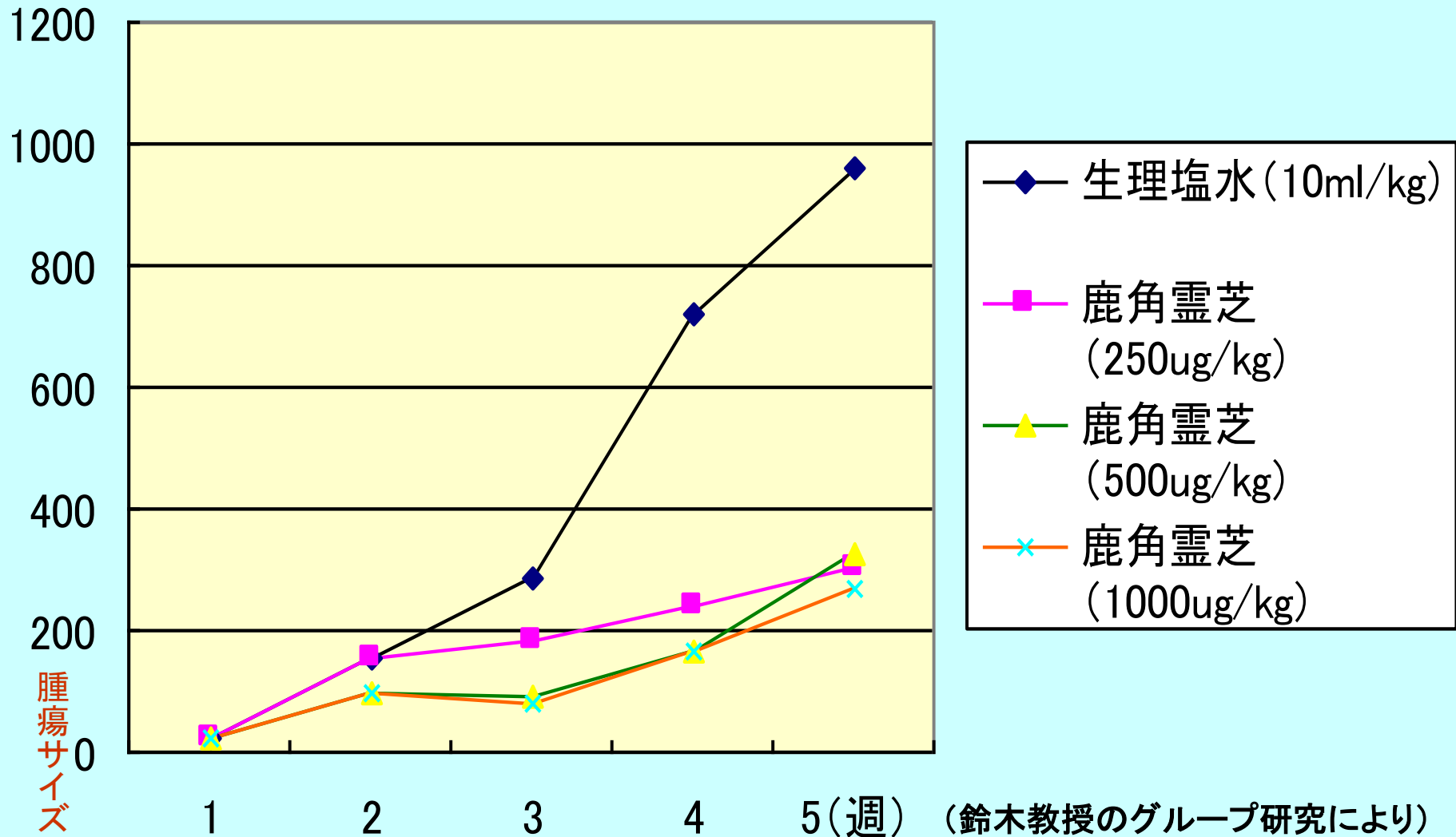
腫瘍抑制率(鹿角靈芝濃縮エキス)



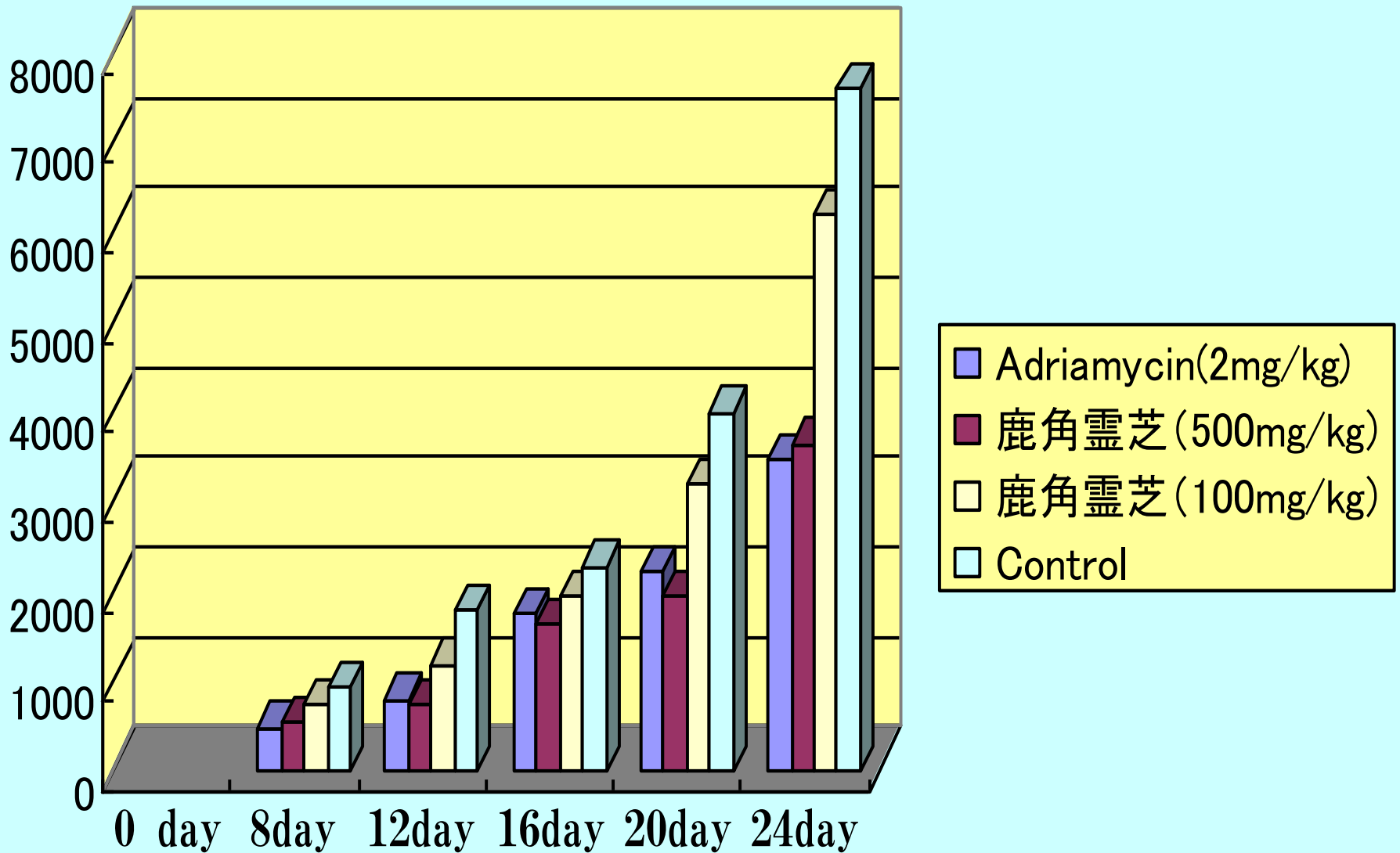
(鈴木教授のグループ研究により)

鹿角靈芝の腫瘍抑制効果

(マウスの実験により)



《鹿角靈芝の腫瘍抑制作用》



有機ゲルマニウム (鹿角靈芝)



ゲルマニウム

```
graph TD; A[ゲルマニウム] --> B[有機ゲルマニウム  
(炭素との化合物)]; A --> C[無機ゲルマニウム  
(酸素と塩素、アンモニアとの化合物)];
```

有機

ゲルマニウム

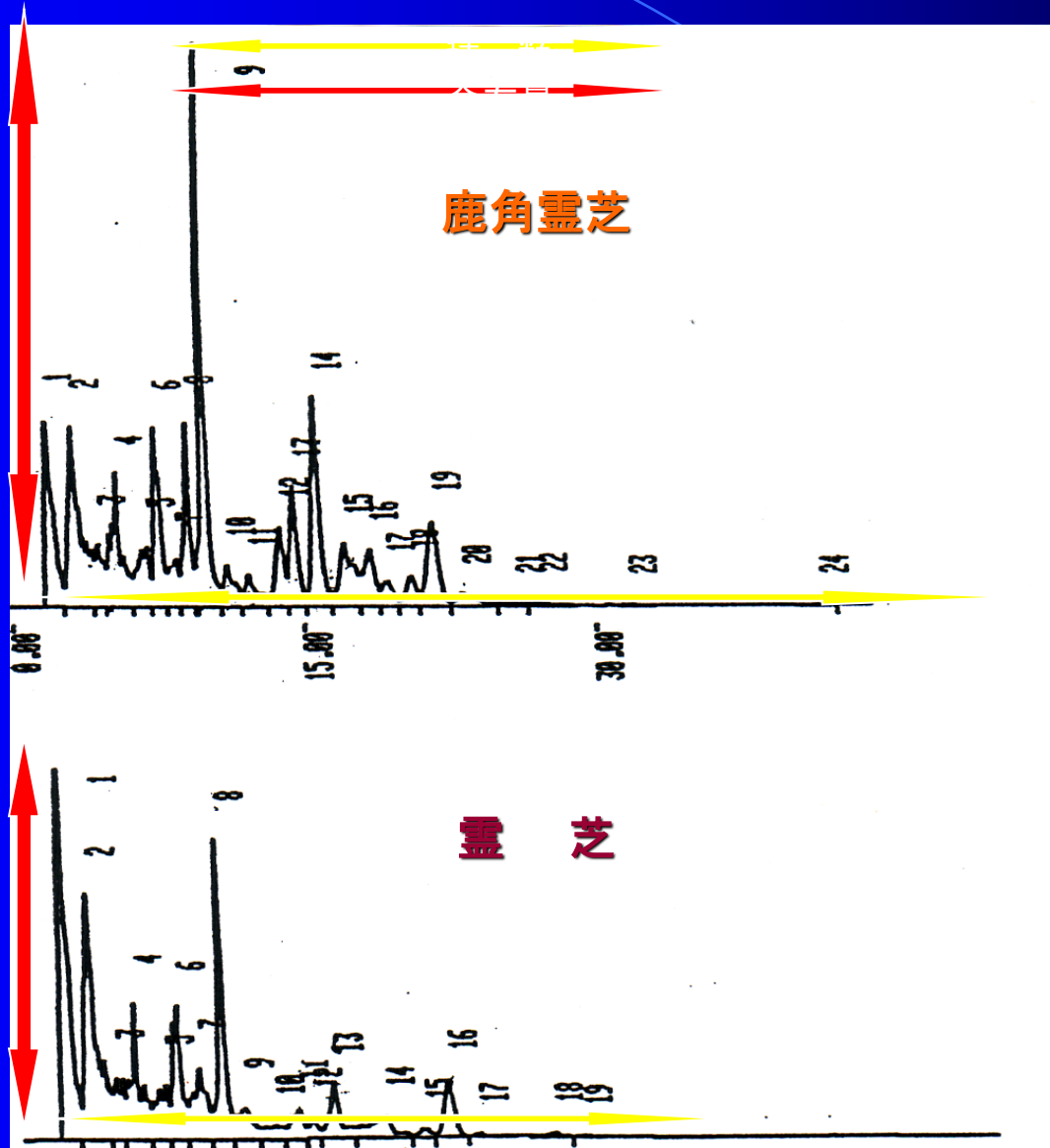
(炭素との化合物)

無機

ゲルマニウム

(酸素と塩素、アンモニアとの化合物)

●テルペノイド含有量比較 (靈芝と鹿角靈芝)



《有機ゲルマニウム の薬理作用》

有機ゲルマニウム

```
graph TD; A[有機ゲルマニウム] --- B[免疫増強作用]; A --- C[抗酸化作用]; A --- D[酸素の十分な供給]; A --- E[遊離基の除去]; A --- F[鎮痛・解毒作用];
```

免疫増強作用

抗酸化作用

酸素の十分な供給

遊離基の除去

鎮痛・解毒作用

ガン細胞

活性化でがんを攻撃

キラーT細胞

活性化のNK細胞

NK細胞

インターロイキン12

インターフェロン γ

マクロファージ
樹状細胞

刺激

刺激

抗酸化

情報提供

Th0
ヘルパーT細胞

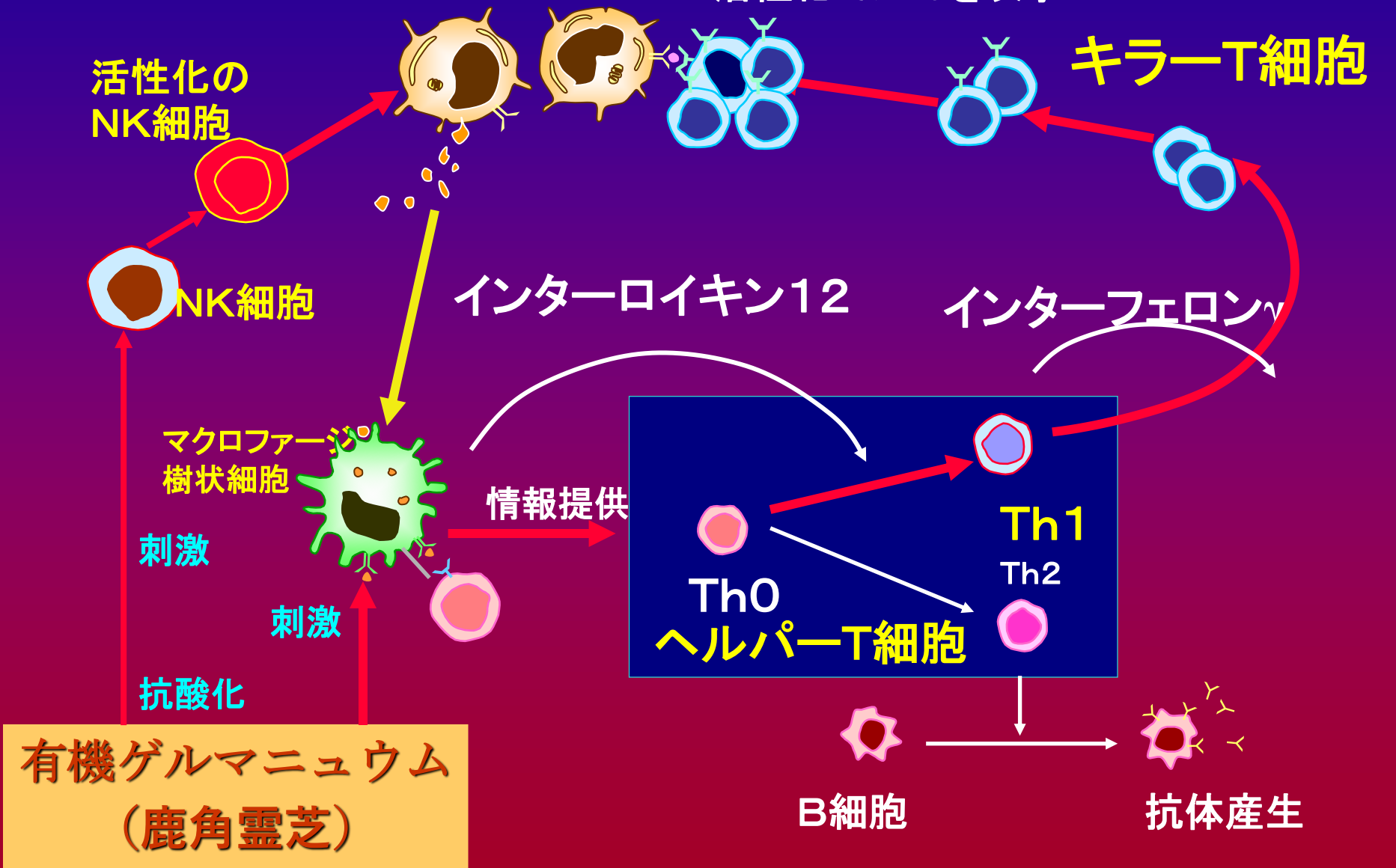
Th1

Th2

B細胞

抗体産生

有機ゲルマニウム
(鹿角霊芝)



《有機ゲルマニウム》

有機ゲルマニウムは自然界に広く分布し、
「鹿角霊芝」「霊芝」「高麗人參」「にんにく」「ネギ」「たまねぎ」「ごぼう」「にら」「にんじん」「わかめ」「しょうが」「昆布」「乳酸菌・ヨーグルト」「牛乳」「乳製品」「トマト」「まぐろ」「さんま」「鮭」「しいたけ、しめじのきのこ類」また「温泉水」「湧き水」など、身近にあるほとんどに含まれているミネラルで、多種多様の働きがあります。
特に熊本産・原木栽培の「鹿角霊芝」に有機ゲルマニウムを豊富に含まれています。

鹿角靈芝の抗癌薬理作用



《癌を持つ患者に対して鹿角 靈芝の薬理作用》

- 一、抗ガン作用（抗腫瘍）
- 二、免疫活性の増強作用
- 三、抗がん剤副作用の予防・治療
- 四、放射線治療副作用の予防・治療
- 五、再発・転移の予防
- 六、体質の改善・バランスの調整

《ガン抑制における靈芝の役割》

一、進行性ガンを持つ患者に対して免疫能の増強

二、ガンの転移や再発を予防するために補助的に使用

三、ガンに関して悪液質・疼痛を緩和する

四、抗がん剤または放射線治療に補助的に併用し、その副作用の軽減や白血球数の維持などを通じて化学または放射線療法の投与量をさらに最適化させる

(コーネル医科大学レイモンド教授の資料より)

β -グルカン

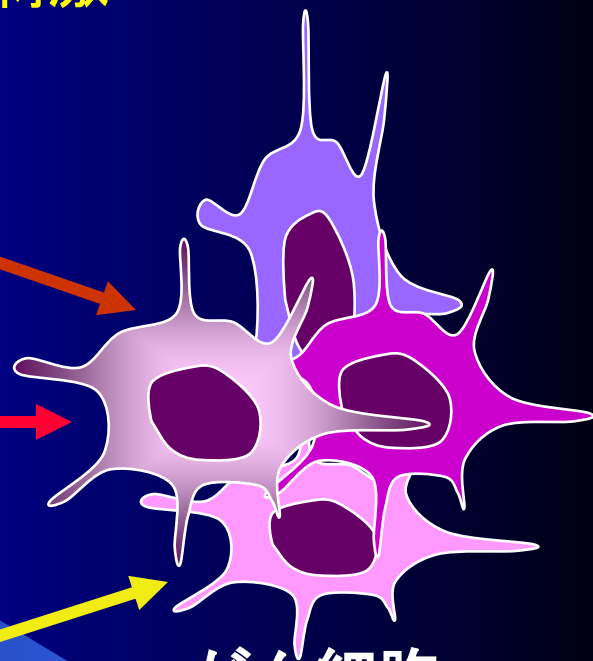
抗癌の免疫細胞を刺激

テルペノイド類
ステロイド

癌細胞を抑制

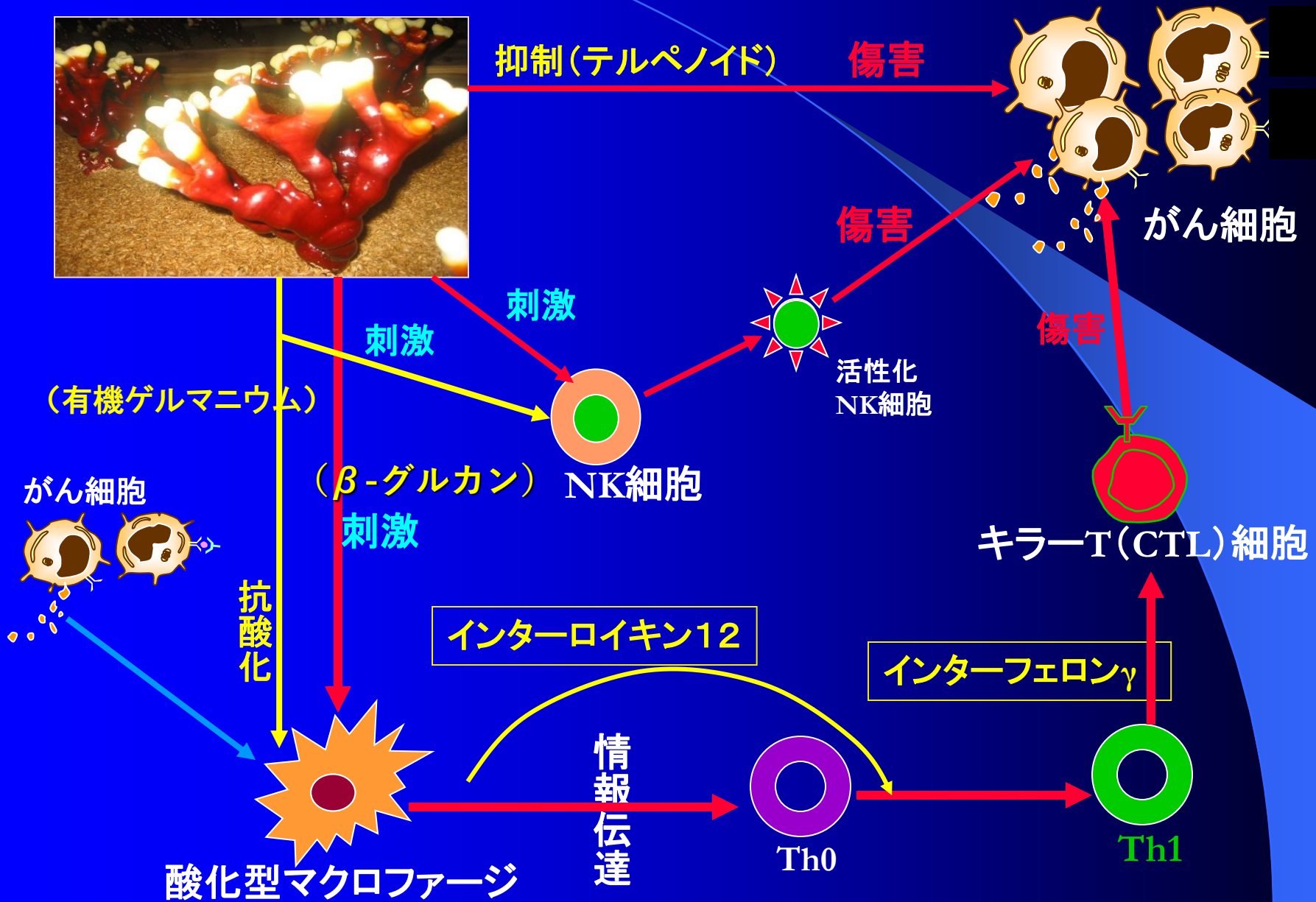
有機ゲルマニウム

免疫増強
抗酸化



がん細胞

鹿角靈芝の抗癌薬理作用



《鹿角靈芝の薬理作用》

- 一、中樞神経作用
- 二、自律神経作用
- 三、呼吸器作用
- 四、循環器作用
- 五、平滑筋作用
- 六、利尿作用
- 七、肝臓保護作用
- 八、内分泌作用

《鹿角靈芝の薬理作用》

九、代謝作用

十、抗炎症作用

十一、免疫能調節作用

十二、抗腫瘍作用

十三、放射線保護作用

十四、老化防止作用

十五、抗菌作用

鹿角靈芝の特徴：

生体調節機能の五つの
系統に働きかけ、その
潜在力を高める。

免疫系

内分泌系

神経系



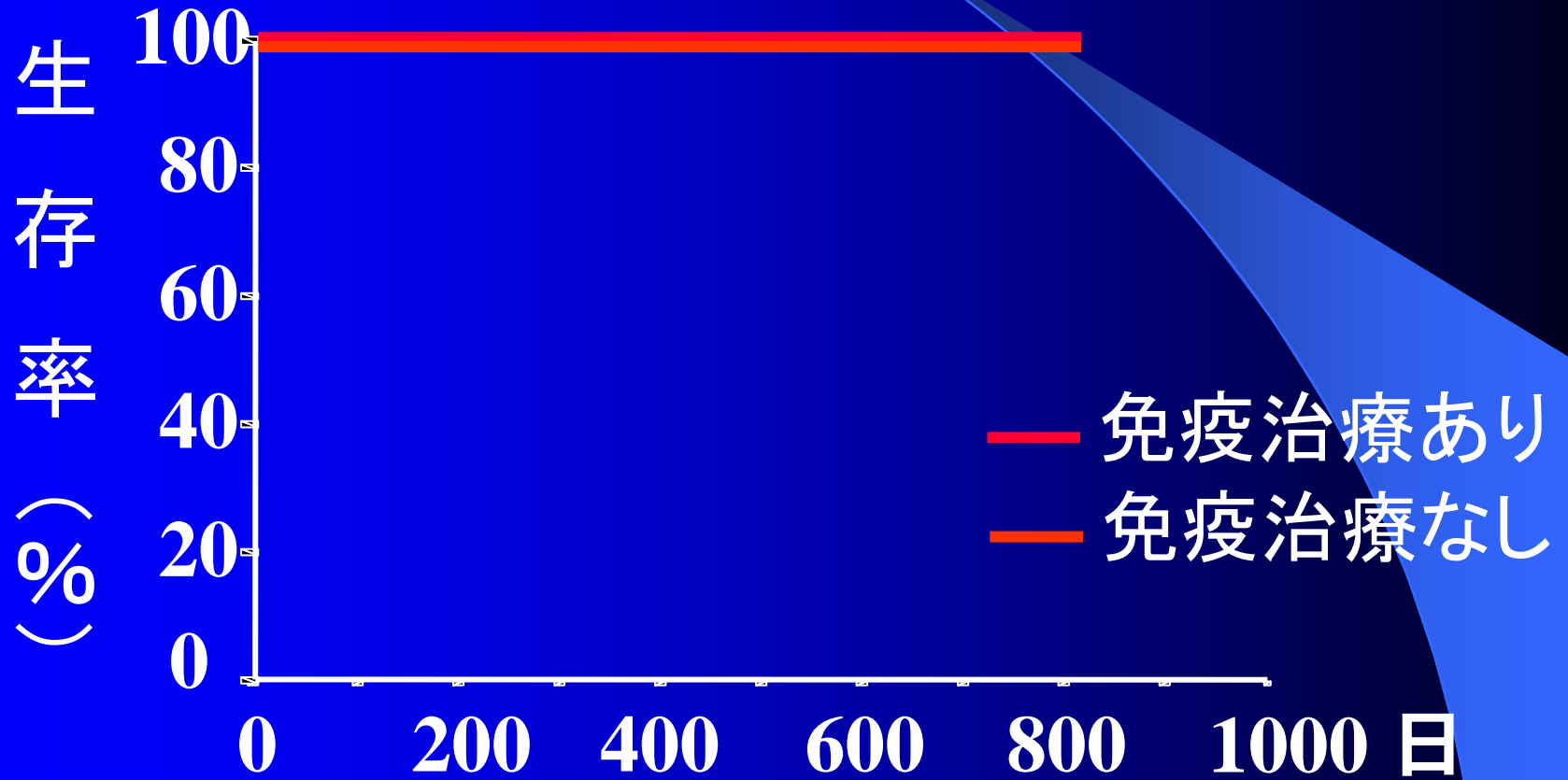
代謝系

血管系

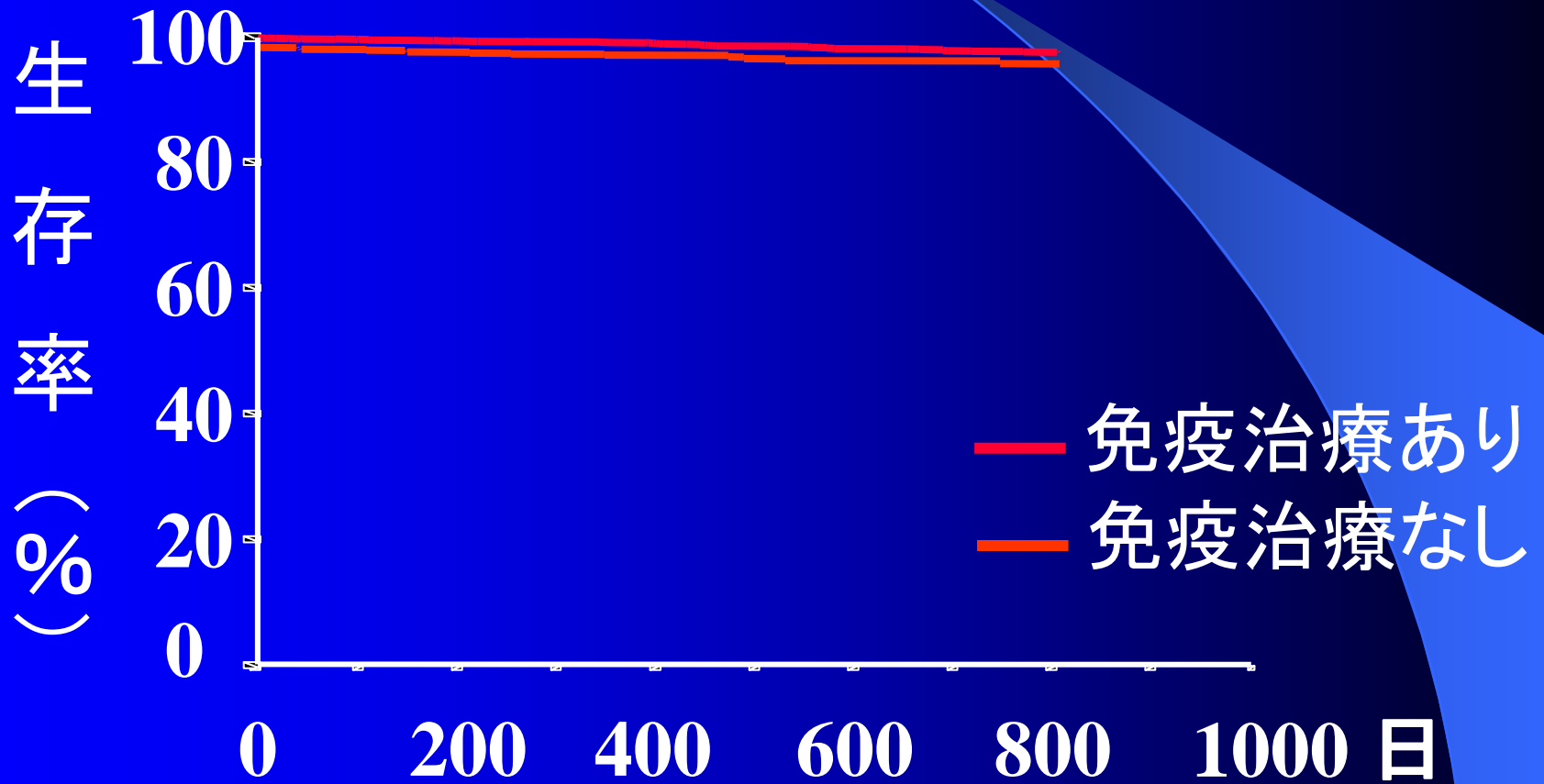
癌の生存率



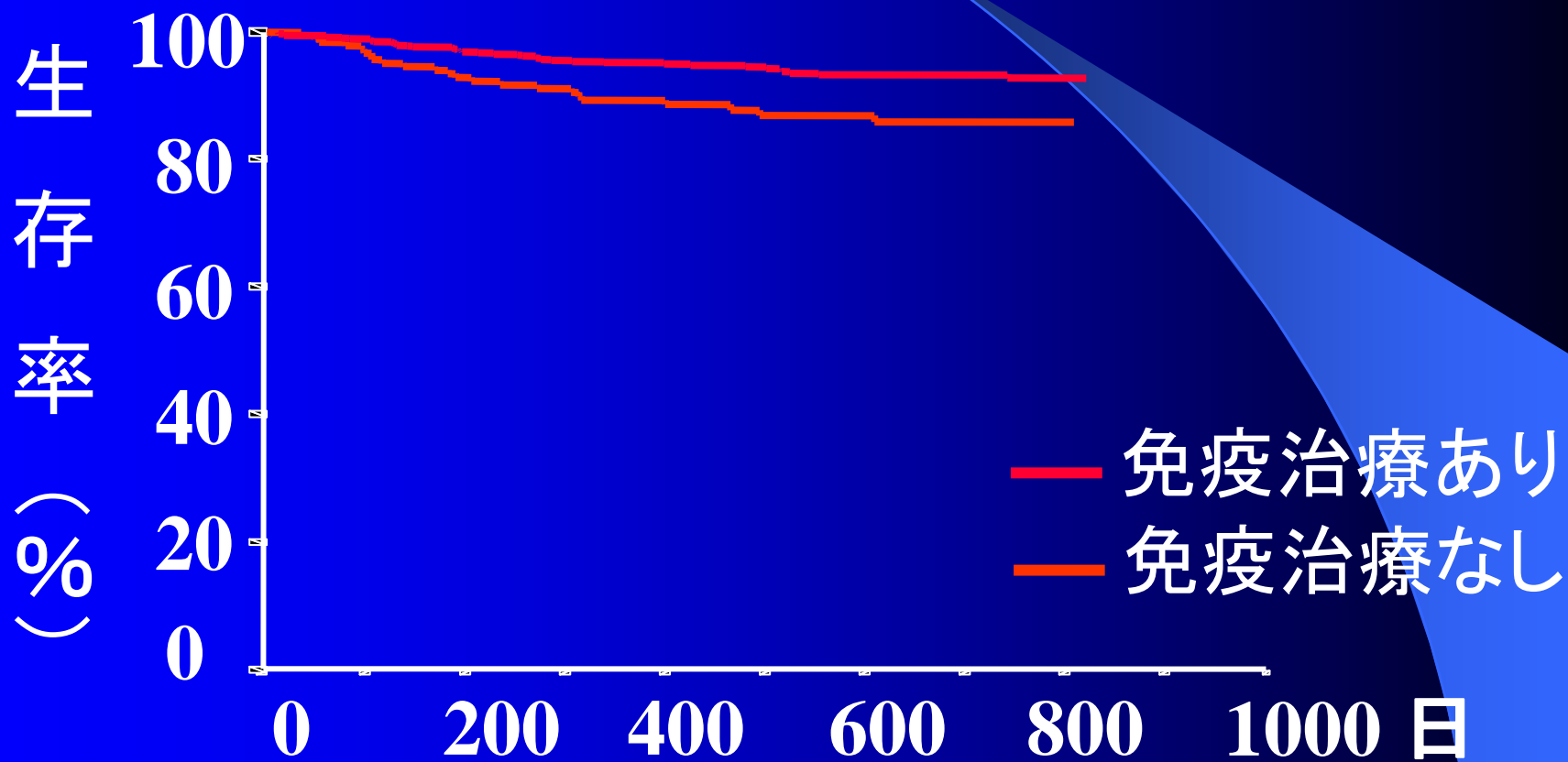
早期がん



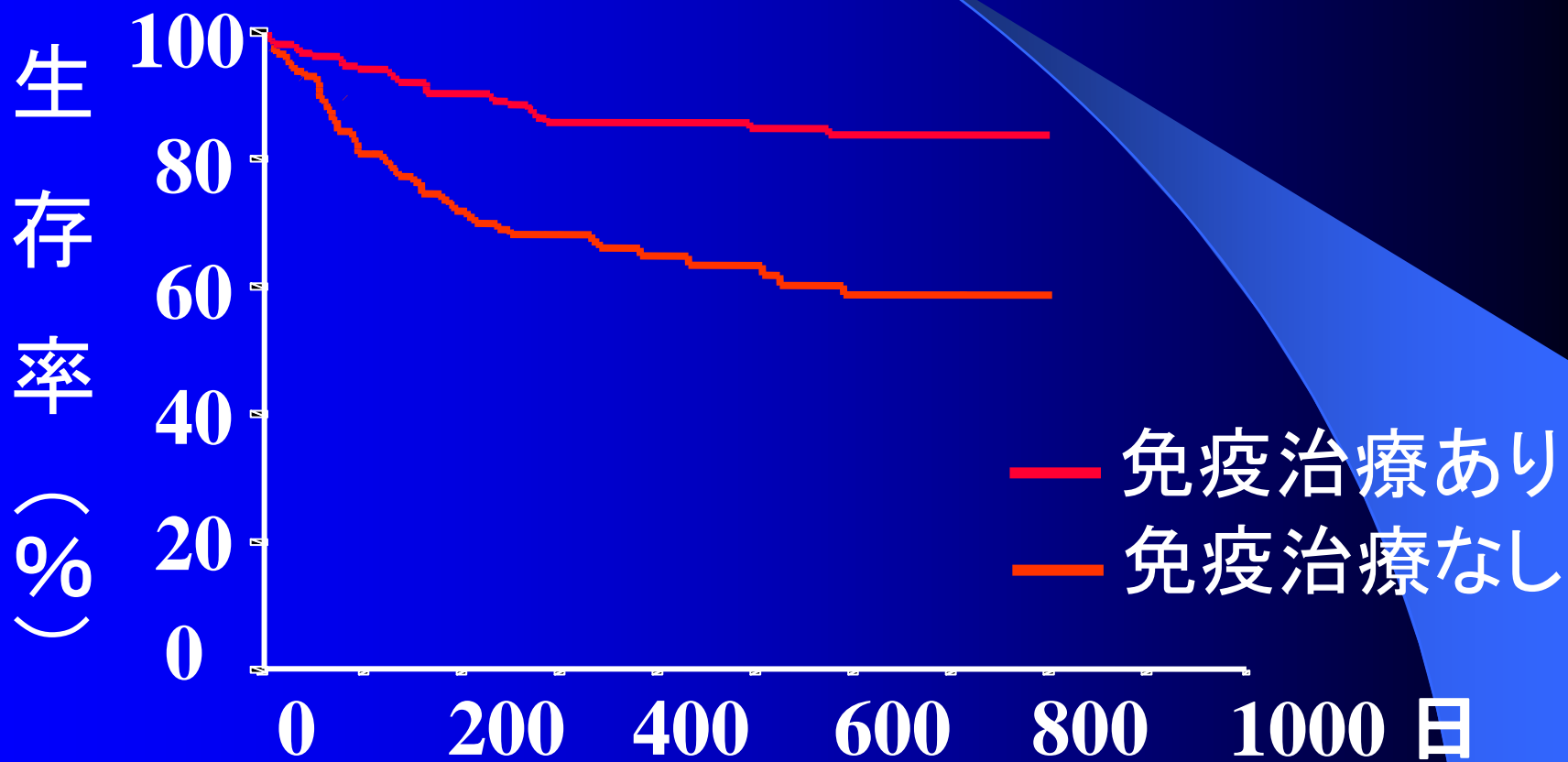
進行がん（ステージⅠ）



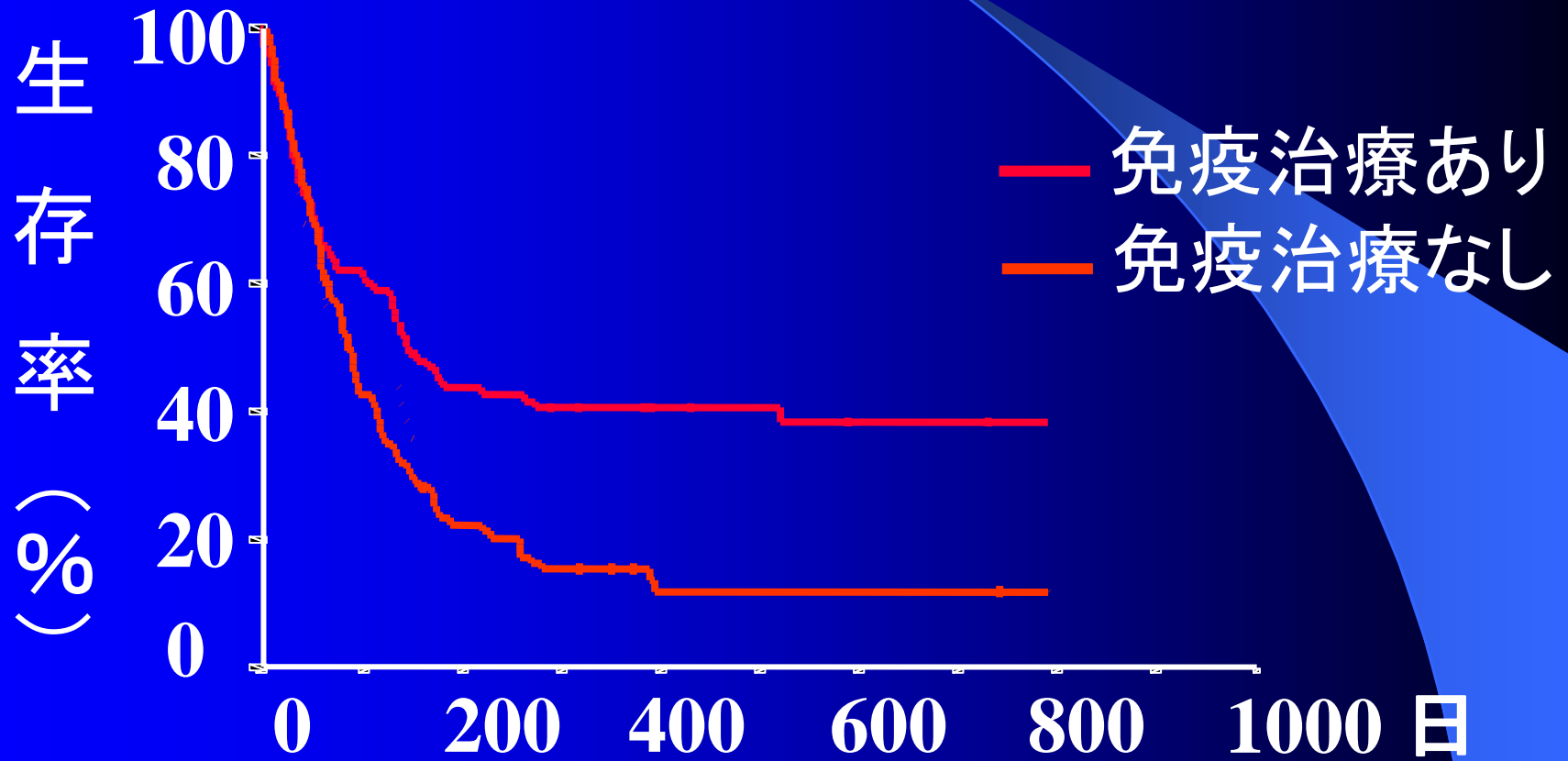
進行がん（ステージⅡ）



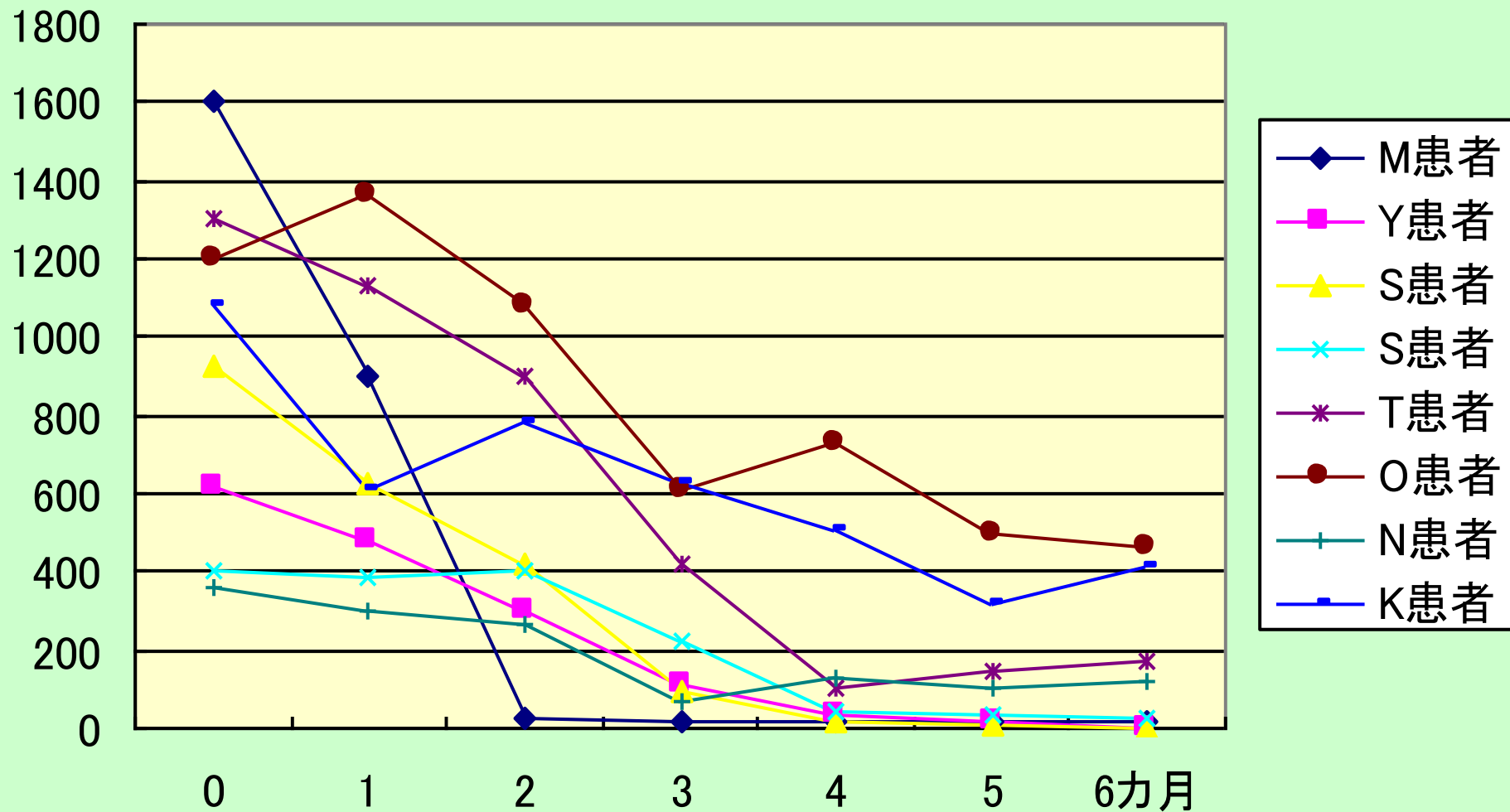
進行がん（ステージⅢ）



進行がん（ステージⅣ）



鹿角靈芝の投与後に、前立腺癌患者の腫瘍マーカーPSAの検査結果



免疫療法の実際応用

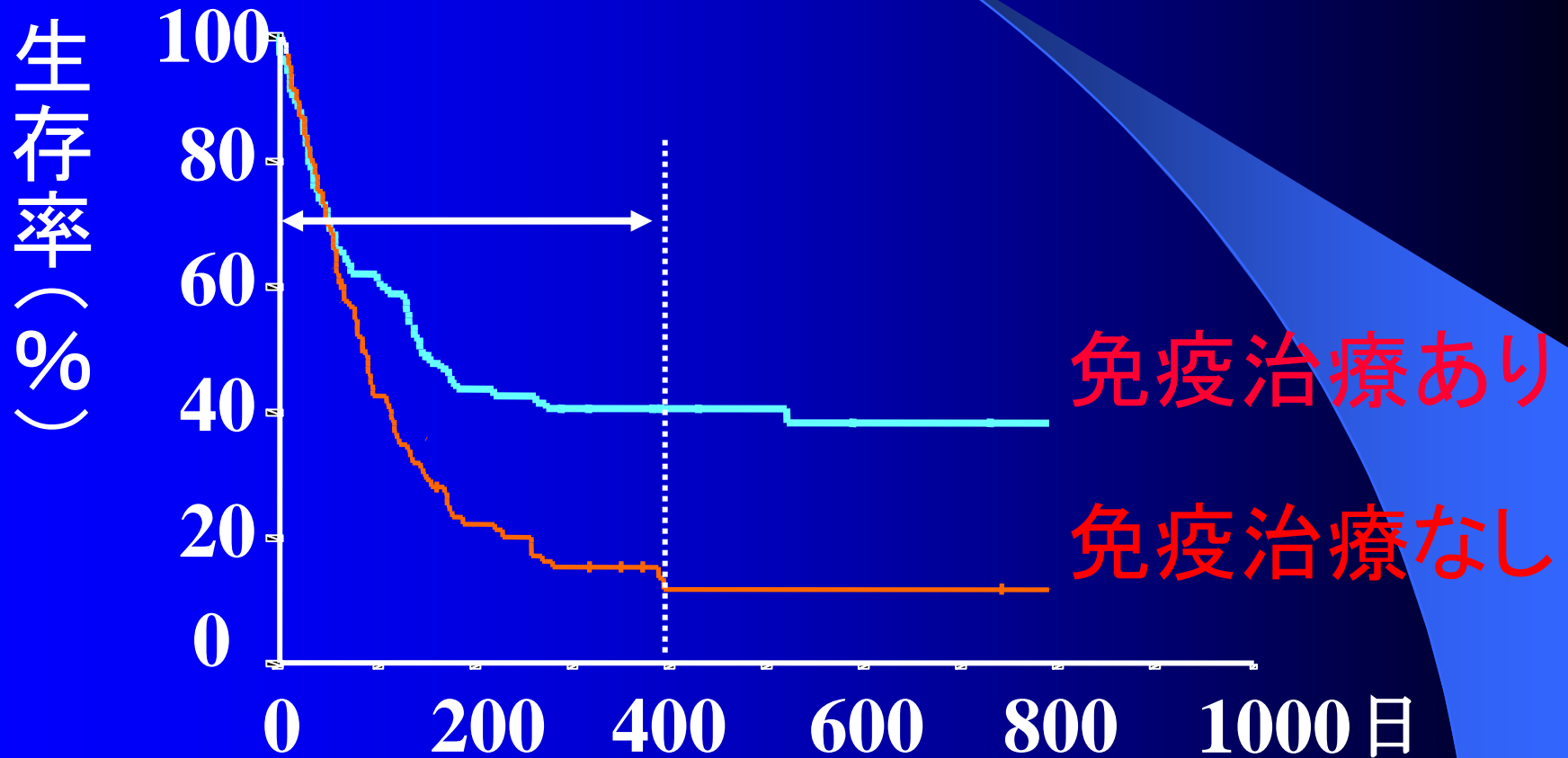


東洋医学研究所
Toyo Medical Institute

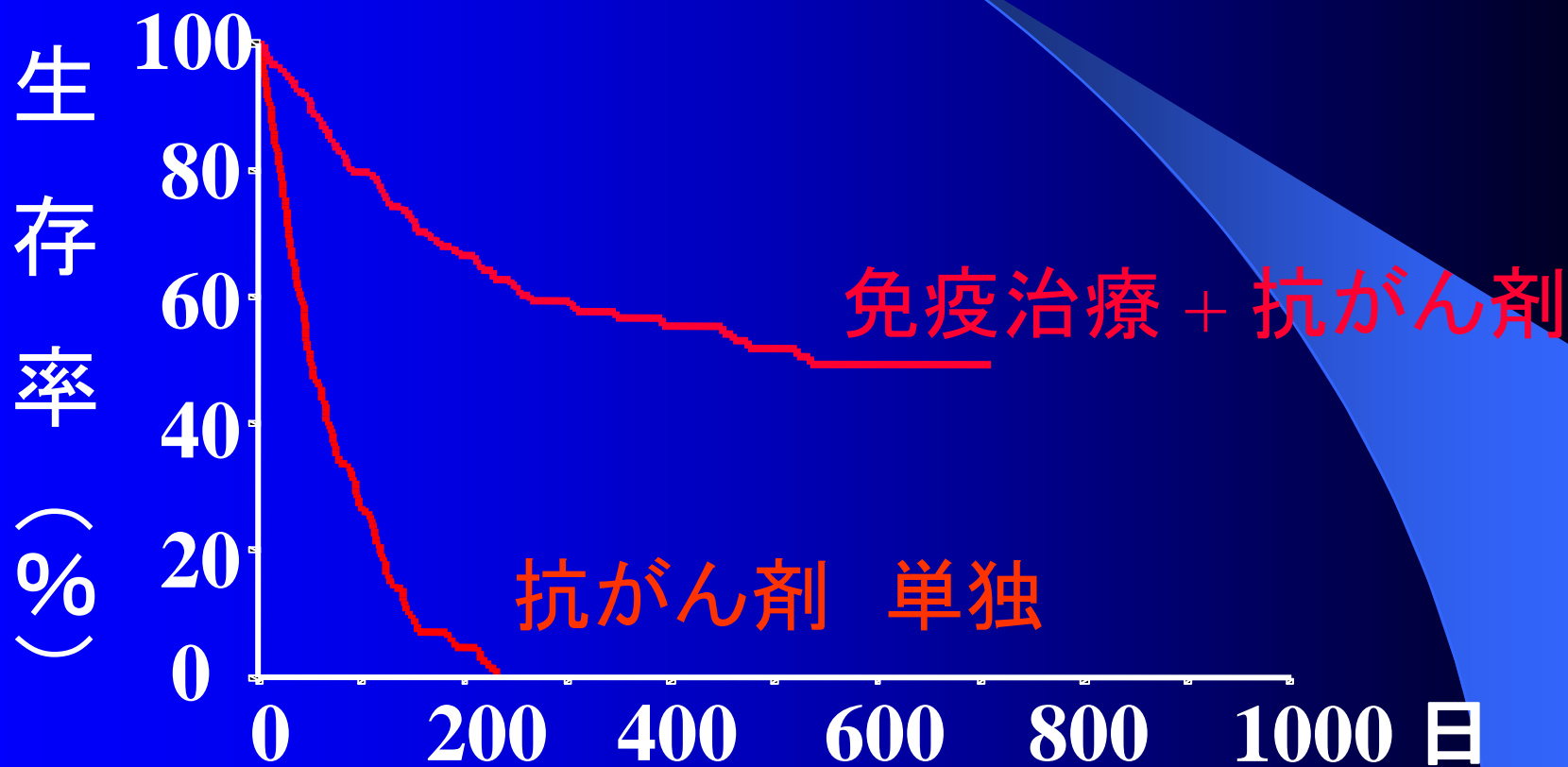
東洋醫學共同研究所
東洋醫學研究所
中國海洋大學醫藥學院

SEP 9 2005

免疫治療は最低2年つづける！



抗癌剤、併用すべきか？



どのように鹿角霊芝を有効的に使用するか…

鹿角霊芝は癌の各段階に対する効果

無症状期

特別な症状なし、或いはときとき疲れや倦怠感を感じる、健康検査で腫瘍マーカ（CEA・PSAなど）は異常があるが画像検査では異常がなし、即ち未病の状態。服用すると一番適切。

早期

癌や腫瘍の術後、身体の免疫能が低く、抗がん剤や放射線治療はさらに免疫能を低くさせます。鹿角霊芝を併用すると、免疫能を高め、がんの再発や転移を予防することに役を立ち、抗がん剤の副作用を軽減する。

中期

この段階に入ると体のバランスが崩れ、正気が弱くなり、がんの増生が早い。鹿角霊芝を服用すると免疫能を高め、抵抗力を増強し、がんの増生を抑え、抗がん剤や放射線治療の副作用を軽減し、体力を増強する。

末期

体のすべてのシステムバランスが乱れ、正気がさらに弱く、がんが全身に侵入している状態。鹿角霊芝を投与すると延長生命、苦痛の軽減、生活質の向上などを目的とする。

注：がんの治療は早期発見、早期手術が大切です。但し、初めて体のバランスが乱れ、免疫能が低くなり、腫瘍マーカが現れ、画像のレベルにまたわからない場合（未病）には鹿角霊芝の投与が一番の効果があります。

手術せず、免疫治療だけでいいか？

危険度	免疫治療あり	免疫治療なし
手術する	1	2.71倍
手術しない	8.07倍	21.9倍

可能ながんで対策

鹿角霊芝

免疫増強作用
免疫抑制の解除
抗酸化作用
バランスを調整

抗がん剤

がん細胞の抑制

放射線

最新の技術を利用

併用

分子免疫治療

鹿角霊芝

基礎免疫治療

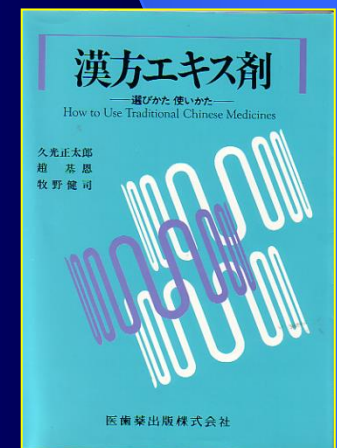
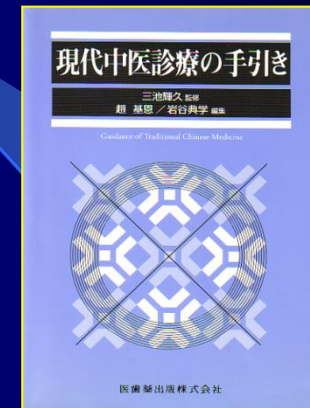
がんの血管新生を
阻害して増大阻止

サリドマイド

がんの活動性を
下げて傷害

癌カテーテル治療

ご今までの研究と著書



ご清聴ありがとうございました

ごさいました

